河内國名所鑑 三上

ル 4
1274
3

門脇巻 1274

河内名所記巻五

恩知神社 髙安郡
恩知左近塚 同
垣内（かいとう） 同前
教興寺 同前
服部川千塚 同前
新徳丸旧跡 同前
追頭越（そうとうごえ） 同前
手塚 同前
十三越 同前
鴈卒都婆 讃良郡
岡山観音 同前
髙宮 同前
秦川勝塚（はたのかはかつつか） 同前
秦行國名鍛冶 同
寝屋 交野郡
三井法花寺 茨田郡
中振龍光寺 同前
中振光明寺 同前

高安郡

神立 同前

業平高安通 大竹村 同前

樂音寺 同前

六万寺 河内郡 同前

四条縄手楠正行正時石塔

五条 同前

出雲井 同前

池嶋(いけのしま) 同前

伊駒山 同前

茄子作 交野郡

米山 同前

村野 同前

郡津(こうづ) 同前

星田 同前

田ノ口 同前

藤坂 同前

因可池(よるかいけ) 同前

鳥立が原 同前

福岡 同前

飛火隈 同前

姥が火 同前

枚岡(ひらおか)大明神 同前

闇上り峠 同前

鬼取が嶽 同前

鷲尾山 同前

日下 同前

龍間 讃良郡

経寺 同前

野崎観音 同前

同観音 同前

尊延寺 同前

私部(きさべ) 同前

森村 同前

私市(きさいち) 同前

岩船 同前

獅子岩屋 同前

百重が原 同前

本尊かけ松 同前

野村 同前

深野池 讃良郡

鴻尾山 交野郡

讃良〻 同前

源氏瀧 同前

北条 同前

三本杉 同前

飯盛山 同前

大橋片足羽川 同前

南野茶磨(うす)山観音 同前

洞峠 同前

中野観音 同前

〇高安郡恩知神社二座 並名神大月次相嘗新嘗 延喜式ニ有
天児屋根尊第五世之孫大御食津尊(おほみけつのみこと)也と
本社二社本地釈迦薬師文殊普賢也と
小宮七社天照太神春日西宮玉祖住吉熊野吉野也
八幡の社ハ六七町奥之山の上ニあり
いにしへハ伽藍一所ニて薬師堂観音堂毘沙門堂在しと也
山号ハ尼川山神宮寺千手観音今ハ一坊あり
楠正成まもり本尊之由不動明王の繪像あり其
外十七躰の繪の本尊あり
〇恩知左近将監正遠旧城山ニ有比左近の塚ニ一本の
櫻の大木根きハより九本ニ出る

昌平坂学問所 (seal)

狂哥

さとりひらきうかふ左近の櫻花是や九本の浄土なるらん　浮萍子

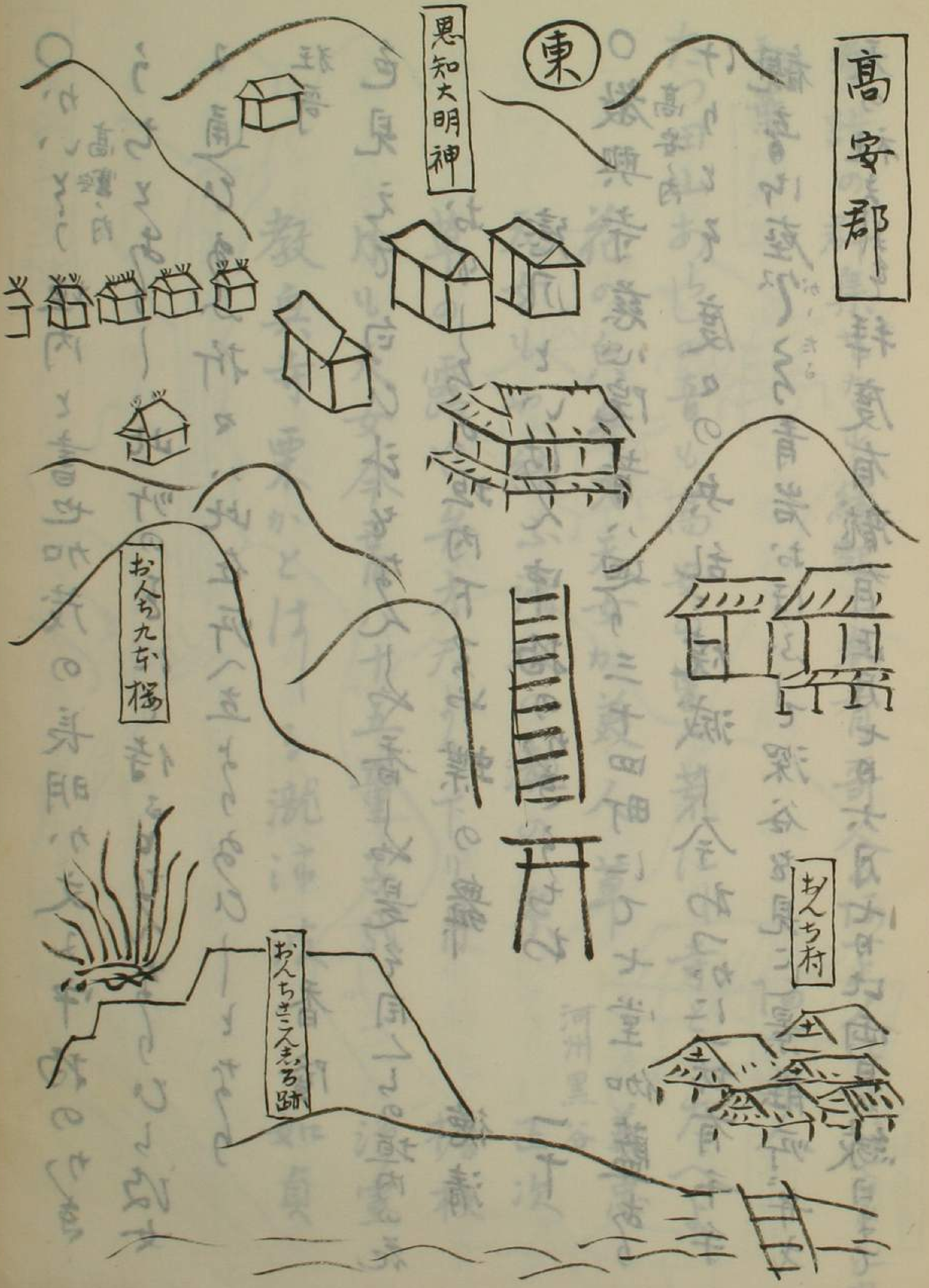
同

草の露ときえし恩知の其ぬしの名のこゝ残り年をふる城　良玄

一本の櫻はいつこゝのえと　江戸 重継

八重一重さけ九のえと桜花　江戸 正次

花ハ雲井変る左近のさくらかな　如貞



○かいとう（高安ノ内）垣内と書也加茂の長明か文に中将のかき
うちとありしハ此所の事にて侍るとなんなりひら没女
に通ひ給ふ折々ハ此在所へ立よりおハしとなり

狂哥

色見えて匂ひ斗をなんしや香しや是そ同くらの垣内の花　香隆

おもしろの垣内下里や蝶の舞　徳清

慇凡といはん中将のかきうちわ　一十

○教興寺（高安ノ内）慈心院昔ハ廻り三十四町にて七堂伽藍あり
けりとそ度々の兵乱に焼滅し今わつかに一坊有千手
観音御座ス崖（がいたる）青岩おほふして深谷を見下し景能所に弁戈
天の社ましませ拝度有瀧有正月七日六月七日此両日ハ縁日まて
参詣の群集をなせ縁起二巻有哥人の行一上人此寺に住ゐひしと也

玉葉　行一上人

たつ田山あらしの音も高安の里ハ荒にし寺とふたへよ

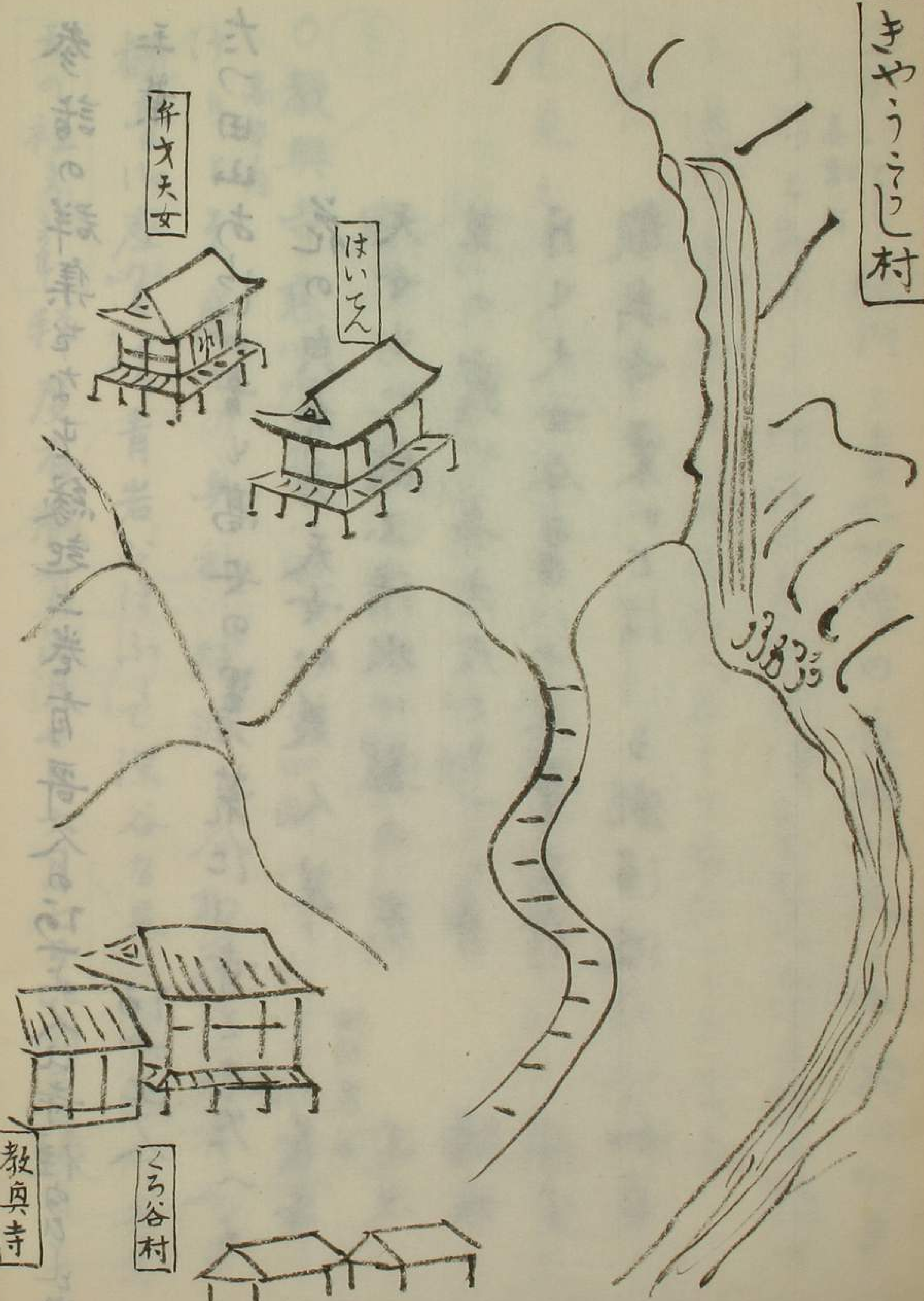
花の貞弁才天女か美人草　河州黒谷　義忠

天女とや結ふ清水の瀧の糸　正次

草の露や弁才天より下り月　檐枝

月も天女今宵ハ十五童子衆　浄宣

教興寺粟かとはしる瀧沫波　如貞



○服部川村山上ハ立石越ふもとハ千塚也大石にて塚穴を
拵へ何れ南むきに口ありて則千あり此因縁をたつぬれハ
いつの比にかありけん空より悪蟲くたりて人民をさし
ころしゝ故に此塚をつかさせあひ石のあひを葉をませ土を
ぬりつてぬりふさきけるとなん又一説にハ天下ひてり打つゝきける
時はかせうらない申けるハ今いく日有て後に火の雨北よりふり
来るへき由そうもんしけれハ儀に塚穴を拵へさせのふあんの
をく火の雨ふりくたりけるに彼塚穴へはしりこミ人々命
たすかりけるとぞそれより此のよしを書につゝかなくと書又お
くかきにあらかしこと書とめ申と也申つたへ侍る

○山畑村（やまたけといひならハす）（高安ノ内）昔の新徳丸長者跡あり鏡塚と云れあり

狂哥　　　　　　　　　　　　　　　良玄

水かねにまかふ草葉の露見れハ新徳丸の鏡つかかな

○大窪村山上ハおとこへと常ニ申ス共追頭越と書申が本説の

髙安ノ内

中この女なりひらを是迄をつかけし故ニをふとうこへと申と也

あとを見てをふとうこへそ月の影　　貞範

○手塚 髙安之内 昔和州宇多郡大森だけ物有往来の人を取頼光渡邉ノ綱をめしてかのばけ物を討て参れとてひさうの太刀を渡さる綱女ノをかたニ出立て通る木の上ゟ綱が頭をひつつかんてそらへあがらんとせしかの太刀をぬきこくうを拂切ニきりけれハ毛の黒くおひたる手の指三ッ有て爪のかゞまりたるを切て落しける頼光此手を秘して朱の唐ひつニ納め口ニまかせ七日が間ハ門戸をとち七重にしめを引四門ニ十二人の番をすへ毎夜とのいひきめをそ射させける七日に満しける夜河内國髙安の里より頼光の母儀おはしてそ門をたゝかせける物いみの最中なれ共正しき老母の對面力なく門を開て内へいさなひ入奉てよもすから酒宴にそ及ける頼光酔ニ和して此を語出されたるニ老母持たる盃を前ニさし置いか成物そあハれ其手を見たやと所望せられけれハ頼光安き程の事にてハとて櫃の中ゟ件の手を取出して見せるへハ母是を取て志はらく見る由してけるか我右の手のひちゟ切られたるをさしし出して是ハ我手にてハと云てさし合たちまちに長二丈斗成牛鬼と成て破風ニ立たりける綱を左の手にてひつさけながら頼光ニはしりかゝりける頼光件の太刀をぬいて牛鬼が頭をかけす切て落しも其形破風ゟ飛

出はるかの天へあがると見てしかつゐに地に落て死にけり是太平記に
見へたり扨高安にお八しまも正真の母かの牛鬼の手を一目見はやと頼
先へ所望有過故に此所へ送り老母に一目見せあひ則此塚の石のか
らうとにふうじこめておかれしが此塚を手塚と申つたへ侍ると也

おそろしやにぎる手塚の鬼ころひ　為沢

○十三越　高安ノ内　峠山の上に塚十三ありし故にいふとなり

狂哥

たんしめる其爪琴の気の数ハ十三越の松風の音　良賢

日

潤月の大晦日に春待ハ十三越の峠なりけり　野鹿

月の皃あらまたゐや十三越　貞範

雁金やをちの数の十三越　保友

出うてし十三越やよはの月　有安

松風も十三越の時雨かな　以仙

○高安郡の名なり

夫木

高安にうつりにけりな時鳥いこまの山を越てかたらふ　公朝

日

くれぬとて独立田の山の端に有明の月ハ高安の里　鴨長明

新六

高安の　行家

狂哥

ハたやくなりにけりこゝろはこれぞあへをそへる　秀立

高安の里の花もし戀風にちりし昔と共になりひら
円　法橋哥慶

戀の水別れの水は高安の昔を聞ハあはれなりひら　定親

田かやをやむかし男のあれ屋敷　仲重

なりひらハ花に高安かよひかな　一十

高安や花は二度にさくら梅　梵達

里の名の高安くなけ郭公　貞弘

時の鳥や声高安の里通ひ　良源

籠の鳥かねハ高安のうつら草　芳昌

高安や二道かをる丹の月　之次

風もよきてある高安のかこへ

○神立村（高安明神也）本社玉祖大明神外ニ五社有中ハ天照太神右ハ住吉西宮左ハ春日蔵王山号ハ感應山寺号ハ薗光寺竹之坊本堂千手観音春日の作御長二尺観音経天神の御筆大般若六百巻春日の御筆也とそ頼朝の御祈祷所梶原が制札ありあさいなの返状あり大師の志ん経一巻有鐘楼有

狂哥

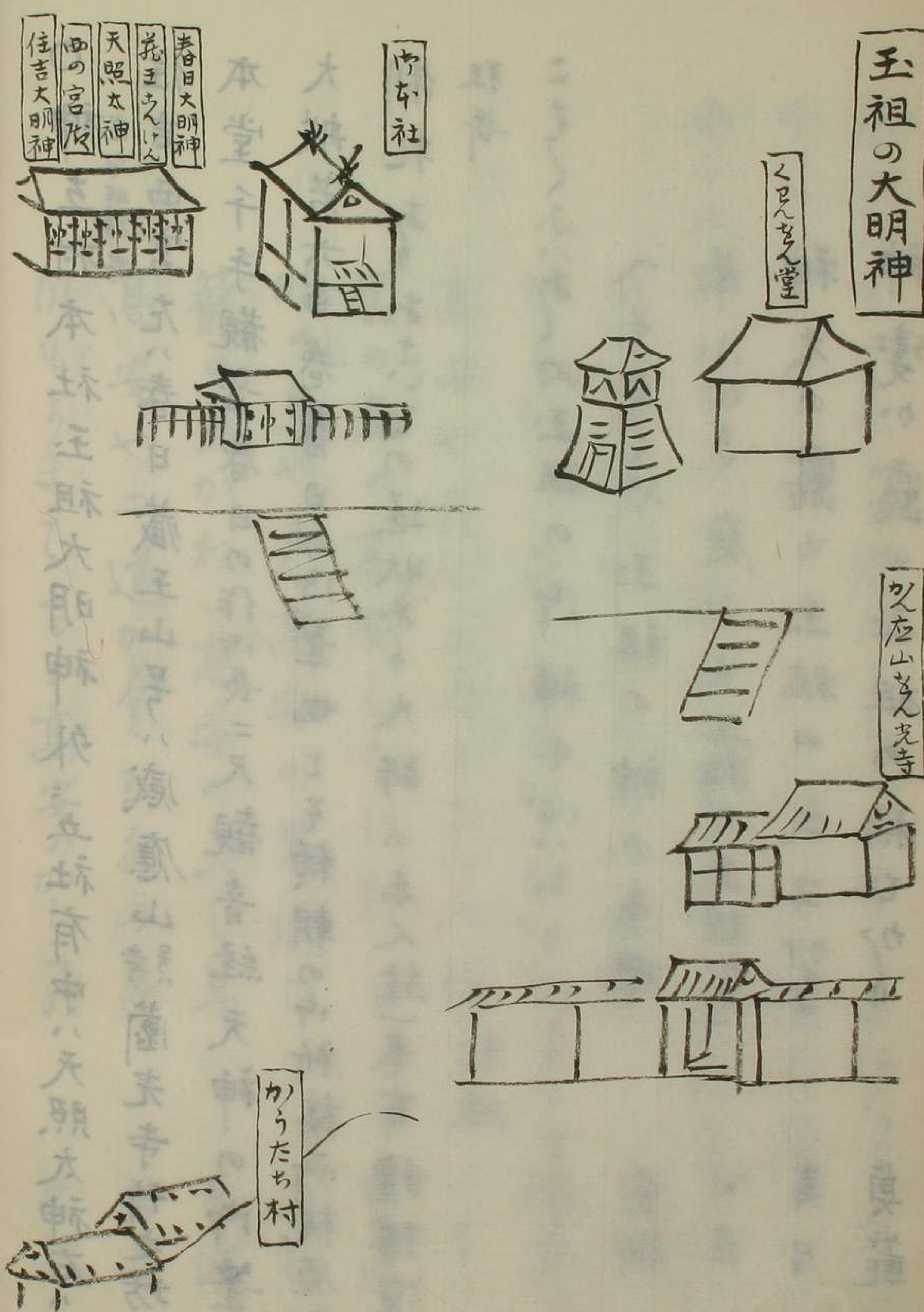
こもくふハあらぬ玉祖の御神も心ハちりにまじはりたまへり　松緑

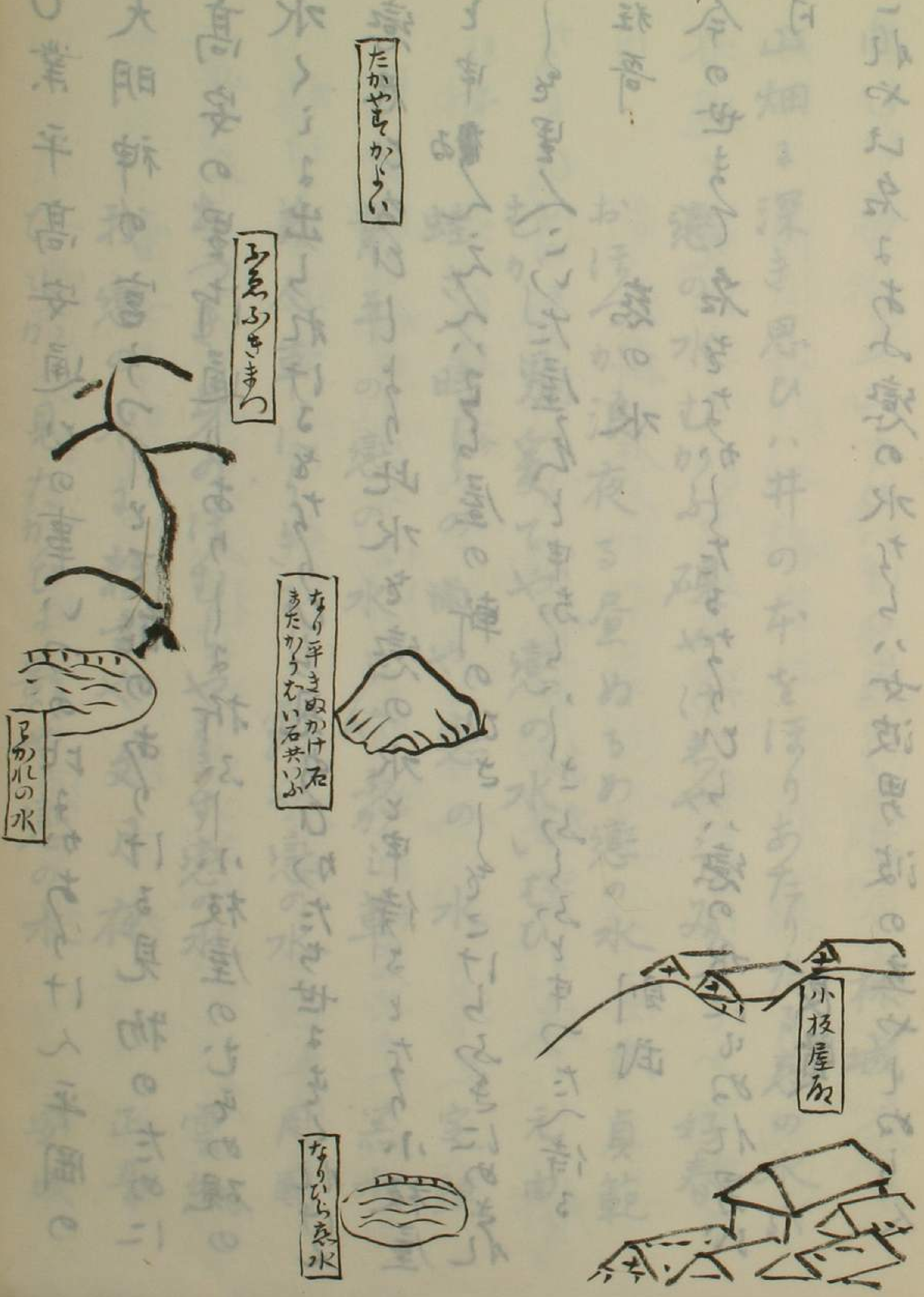
へそまくや玉祖の神の糸櫻　意朔

草ふかき庭にも露の玉祖かな　可圭

神木の露も玉祖の氏子かな　寿月

神變か露の玉祖の稲ひかり　貞範


玉祖の大明神
くわんおん堂
妙応山きん光寺
やな社
春日大明神
義王きんけん
天照太神
四の宮石
住吉大明神
からたち村


小板屋石
たかやまてかよい
なり平きぬかけ石
またかうむい石共いふ
ならひら衣水
いかふきまつ
わかれの水

〇業平高安通ひの事いつの比にかありけん平岡の
大明神の宮うつしとて能のありける見物のために
高安の里御通りありしに折ふし小板屋のむすめ硯の
水くミに出られけるをなりひら見玉ひかたち世にすくれけん
戀思ひ玉ひしより此水を戀の水と申侍るとなり小板屋
と申いんえんハなりひら屋の軒のひさしをこけらふきにめされ
しを里人こいた屋と申あらハしさふらふと申つたへ侍る

狂哥　戀の水　則武

今の世まて名をなかしたるなりひらハ戀の水にぬれ男ぶ

同　良賢

これや此名にあふ戀の水なら八女波男波の立やしぬらん

同　林城

山畑に深き思ひハ井の本をほりあたりたる戀の水ぶ

戀の水むかふ硯やけちやうみ　好春

おほつか浪夜る昼ぬるめ戀の水　貞範

むかし男変てや戀の水いたひ　元由

蛙さへ時分の雨や戀の水　定親

業平の戀の水とやかきつ草　忍水

美人草にうきうし露や戀の水　周國

あつき身のほむらやさますゞ戀の水　雲紙

我戀の水に数事や文月夜　正音

ひれかけ見たかひに影や戀の水　安成

二道のちきりつめたし戀の水　野鹿

雪女なかれやたてゝ戀の水　良賢

業平よなく通ひあふ程にめしたるきぬ道芝の露にしほれけるを此岩にほしあひしより衣掛岩と申也又此岩にほしあひそれよりこうはい色に成し故ニ紅梅岩共申つたへ侍る

狂哥　紅梅岩

なりひらのそのあとゝふか鶯の紅梅岩に経よこし聲　淨久

同　衣掛岩

春過て夏になりひら通ひ路のひろきをほせてふ衣掛岩　徳清

同

其むかし男ハ衣にきぬかけの岩ほに苔の残る念力　一利

衣掛のいはれを見せる霞かな　一志

前たれか紅梅岩に下り藤　政公

花の色といつき衣かけ岩つゝし　正音

はふ蔦や衣かけ岩の文所　嵩水

なりひら夜半に通ひあひてかの女とあひづの笛を松の根もとにて吹あふ故に笛吹松と申つたへ侍る
笛吹松の事謡にもうたへり

狂哥

高安ハのふおもしろや笛吹の松のはやしにきろつちつの聲　典僧

同

いとゝたに音さはかしき鳴神のつゝみにそふな笛吹の松　重次

狂哥　　松緑

笛吹松

名巻ハこれはよふえふきの松の梢に未鳴せ見おれ

日　　及次

持のぬしハむかし語りになりひらの笛吹松ハ今にありけら

音に寄か笛吹松に雉子の鳥　巣水

さかり葉か笛吹松にさかり藤　徳清

笛ふきの松に音をそふ雲雀かな　一志

身やひやり春葉の笛吹松の風　栄貞

笛吹の松の役者や初あらし　安成

ふえふきの松は時雨に青葉かな　良賢

○大竹村の内になりひらの通ひ路とてあり

狂哥　　則武

志のひ来て恋しき人は大竹のよことにかよふあまめ男

大竹や里の名に立のほり竿　政公

あられ酒ふる大竹のさしへかな　良賢

伊勢物語にいはく有常かむすめの

風ふけは沖津白波たつた山夜半にや君かひとりこゆらん

とよみけるを業平せんさいのなかにかくれゐてきゝて限りなく

かなしと思ひてかうちへもいかすなりにけりまれまれかの高安に

来てみれハはしめこそ心にくもつくりけれ今ハ打とけて手つ

からいゐかひとりてけこのうつはものにもりけるを見て心う

かりていかすなりにけりさりけれハかの女屋まとの方をみやりて

君かあたりみつゝをらん伊駒山雲なかくしそ雨ハふるとも
といひて見いたすにからうしてやまと人こんといへり
よろこひてまつにたひくすきぬれと
君こんといひし夜ことに過ぬれハたのまぬものゝこひつゝそぬる
といひけれとおとこすますなりにけりと侍り
此段を紀の有常か女の事と云ハ貞女の所を顕さん為也とせ
わかれの水の因縁を尋るに里人のかたりしハなりひら高安か
よひたえしに成行ハかの女よろつに付うしろめたく思ひ大和のかた
はかり詠めくらしさて文のおくに二首の哥をかき送るとなり
君かあたりみつゝをらん伊駒山雲なかくしそ雨はふるとも
君こんといひし夜ことに過ぬれハたのまぬものゝこひつゝそぬる

なりひら此二首の哥ニ心まよひなつかしくやおもひけんまれ〳〵
ニ高安ニ来てひかし窓よりのそき見なへハかの女手つからいゐる
かいとりてけこのうつわものにもりけるをみて心うく思ひ志はし
たゝすみおハしけるに折ふし月影のまとよりうつり男のすかた
見へ侍りけれハかの女まち得てあはん事のうれしさよとて立
出るになりひら大和の女を貞女とおもひ高安の女ハ此時見おとさ
れえんやつきぬらんあとも見すそうとうこへ笛吹山のかたへ
けるふとなり跡かあきりにおつかけぬる有様おそろしくやおもひ
はまけん池のはたの松の大木ニのほり居るふ月かけにすかた
れ水ニうつりしを業平是におハしますといひ飛て池ニ入むなしく
成けるとそ聞つたへ侍るそれ故此水をわかれの水と申也それ故

高安の里に東ま窓をあけぬと申つたへ侍る

狂哥　別れの水　正音

二道をかゝるちまたとなりひらの別れの水のそこのつめたさ

出替りハ是もこかれの水仕かな　如元

おほとけのこかれの水ハ手向かな　良賢

曲水のえんや別れの水はなれ　忠幸

夏衣やあかのこかれの水あらひ　安盛

くむ鮎の別れの水や細の露　好春

露ならぬ末や別れの水くさい　似柳

なりひらの水かや影をかくゝ草　宗水

汲たひに別れの水そ月の皃ハ　貞範

○入月は別れの水の名残かな　林城

○樂音寺藥師いましへハ觀音ありけるとそ旧跡
高安内
鶯の琴のねらへかかくおんし　吉勝

○六万寺山号岩瀧山往生院釈迦阿弥陀觀音ます昔ハ
比寺ハ凡味世に勝ける柘榴の大木有比種世間へひろまるよしさくろの名所とそ

狂哥

寺内なる往生院のさくろの実六万つぶもあらんとそ思ふ　意翔

○四条縄手楠正行楠正時石塔あり

狂哥

石塔を見る人のこか正つらを見たさぬ人も泪おとして　久任

同　松緑

楠の石となりしを今こゝにまさに見たりや正つらか塚

日

敵と見てたくり寄たる兵ハ四条縄手を先かけの武士　林城

花咲は変れ都の四条かな　芸水

○五条正観音

夕貞や手向ん五条の観世音　久任

月の都河内まれある五条ぶ　芸水

○出雲井村十一面観音　正之

狂哥

観音の光りをはなち山端に十八日の月や出雲井

出雲井は八雲の哥かなく蛙　如貞

○池の嶋観音

○生駒山いつの比にかありけん唐土より和國へ駒を渡されける河内山にてなたしめおへハ駒共いさゝきをふてはつらハしき駒は生のひてめでたけれハとて生駒山と名付おふと申傳へ侍る

後拾遺　良暹法師

わたのへや大江のきしに宿りして雲井に見ゆる生駒山ぶ

愚草　定家

沫玉れこゝや咲花と今は見る生駒山の雪の村きえ

新後拾遺　平貞秀

難波よりみえし雲間の生駒山今ハいつくそ五月雨の比

新勅撰

生駒山のふもとにてをハりそり侍る　大僧正行基

法の月久しくもかなと思へともさよ更にけり光隠しつ

続後撰　天平廿一年伊駒麓にて終りをとり侍ける遺戒哥　同
かりそめの屋とかる我そ今更に物な思ひそ佛とをしれ

狂哥　生駒山　和州　河州両國へかゝりし名山也
大和河内両に引と申へし生駒の山の霞ありやく　良弘

同
お月さま見つゝ送らん生駒山雨氣なりとし笠ハふめそ　元信

とんとそよつ生駒の嶽ていさめ春　宗圓

いとはふに横雲つなけ生駒嶺　江戸 重継

花見にやいさ引つれて生駒山　一雲

桜散木の下康毛か伊駒山　政公

はくら萌ゑ生駒の山のわか蕨　同

雲よ穿よいこま鳥の高根かな　善心

あしゝとて鳴や生駒の沓手鳥　宗音

聞まいこまだ初聲そ郭公　正俊

立霧（霧）ハ生駒の山の尾崎かな　笑水

照月の鏡鞍をきいこまやま　常政

時雨にや古はを落を生駒山　政公

身ふるひや寒き生駒の山下風（おろし）　清次

○飛火の隈　生駒山に古へハありけるとそ　一利

狂哥
なる神か生駒の山にとろめけハ飛火の隈のやうな稲妻

あら池へとふ火の隈の蛍ハ　良弘

〇姥か火此因縁を尋ぬ夜るく平岡の明神の灯明の油盗
侍る姥有しに明神の冥罰にやあたりし彼姥なくなりて後
山のこしをとびありく光り物いてきて折く人の目をおとろかし
けるに彼火炎の躰ハ死しける姥か首よりしてふきいたせる
火のとく見し侍る故にかの姥か妄執の火にやとて則世俗に姥
か火とこそつたへけれ高安恩知近も飛行雨けなとにハ今も出るとせ

狂哥　良綱
またしてハ人よせをする雨の中にうはかひにくのはるゝ煎し茶

同　良賢
何内鍋の下に焼火のもえ立ハかの執心のうはめ柴かも

及次

同
かゝ志ろくほたる見てつゝ志ハおれはちやうちんの火も姥か火とみへ

姥か火や印を結ひて芥子坊主　林城

飛ほたるさなから姥か火縁かな　重次

姥か火かほしか河内に飛螢　素玄

姥か火かくれえぬ間そなき五月雨　安求

五月闇てらせハ姥かひかり哉　良恵

姥か火ハ物かいち説の虫こそり　一十

接侍ハ姥かひとの手向かな　政公

姥か火をたよりかはた織虫の音　宗圓

いとし子とだきぬる姥か火桶哉　浮萍子

神れとかめあたるハ姥か火もち哉　正音

くらかりにミゆるハ姥か火おけ哉　常政

○牧岡(ひらおか)大明神

一　牧岡天児屋根命

二　鹿嶋武甕槌命

三　香取経津主命

四　會殿姫　天照太神也

若宮殿天押雲命

正月十五日御神前まて粥を焼粥の中へ五穀并弟作物の数ほと竹のくだをあミてに名をかき付くにへ竹の中へ入祢人取出しくだの中へかゆの入様の次第を諸人ニつける一とせの善悪をしれる事也

狂哥

見あくれは牧岡山ヵ煙たつかゆのかまとハにきはひまけり　政安

同

牧岡の神の所帯ハ二所三笠の宮ハ小屋ねつくりに

明神の御きんたくなりひらおかゆ　可房

同

牧岡明神の宮寺六坊豊浦ヵありといふといひならハせ　定圃

豊浦の来迎寺十一面観音御長一尺五寸

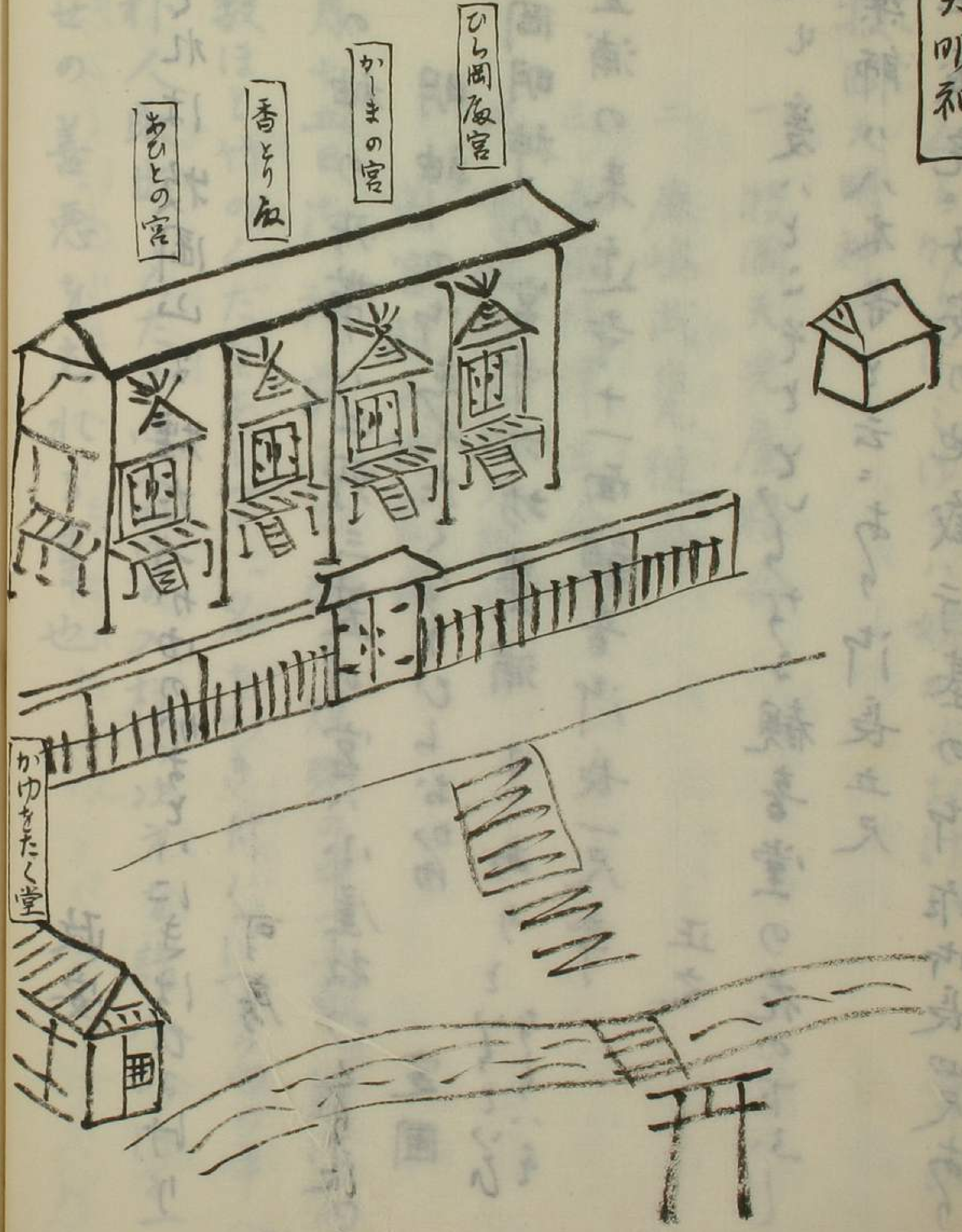
同

順礼も爰ハとこそとといふなる観音堂の花の下ふし　正之

薬師ハ八木寺と云ニあり御長五尺

地蔵院ニ子安の地蔵行基の御作御長四尺あり

牧岡大明神



○闇上り峠

花に火をともせをくらかり峠かな　可次
桜かさしけふはくらかり峠かな　常征
くらきよりくらかり峠や五月雨　未江
霧ふかく満てくらかり峠かな　江戸 重継
月の入跡はくらかり峠かな　常有
月の夜は雨まくらかり峠かな　笑水
くらかりはあらて里となる峠かな　貞因
雪に名をうつむくらかり峠かな　元由
大和は実くらかりの峠かな　周國

○鬼取か嶽　くらかり峠より三丁ほと北へのほる所なり　役行者孔雀明王呪ッたもつて

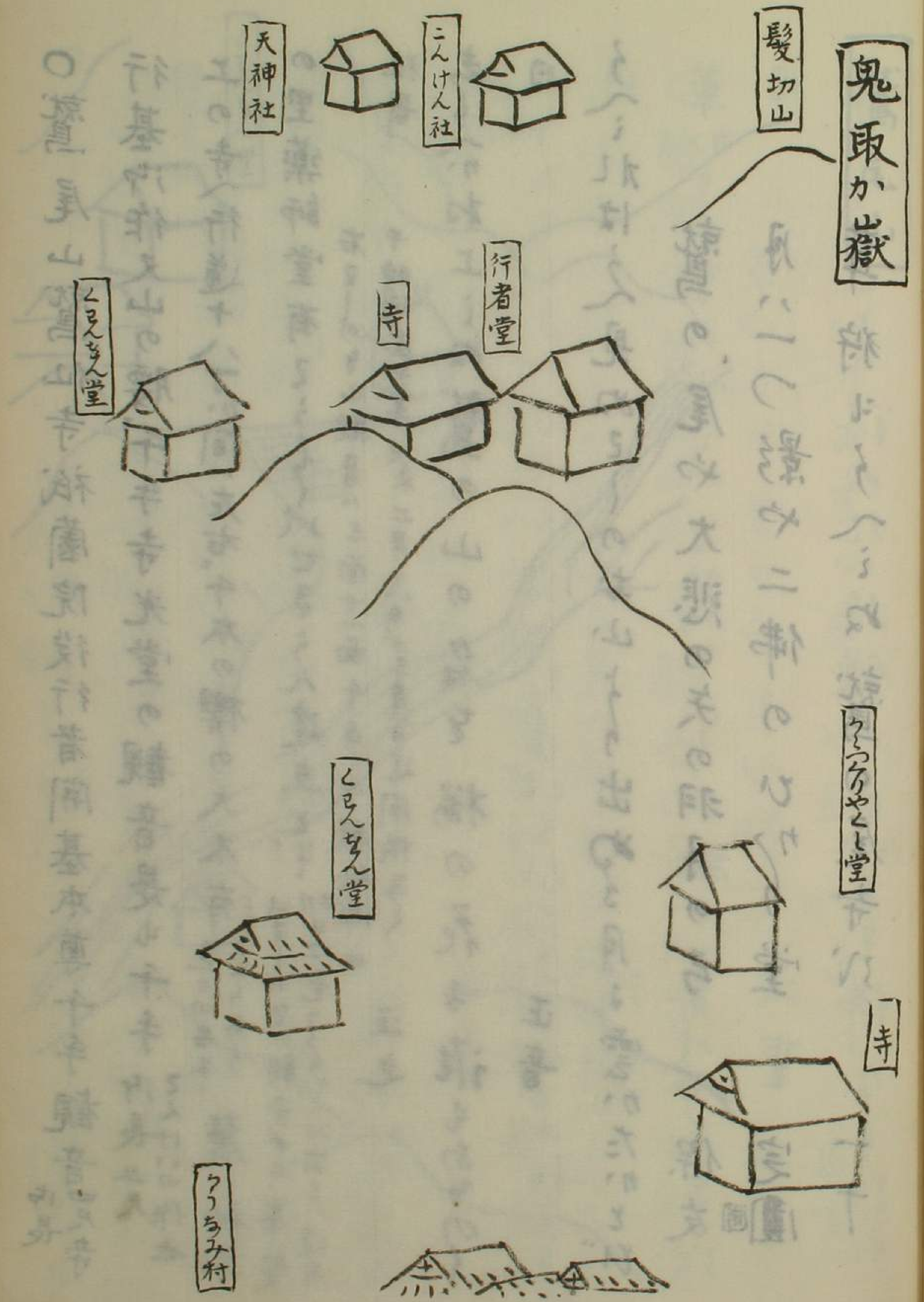
行ひ叶ひ給へる故にや此山にして鬼神をとらへ則髪を切
使者となし給ふ故髪切山といふ也慈光寺ハ役行者の
開基則自作の観音并ニ木像の御自影有十社権現アリ
役行者の笈(おひ)錫杖(しやくぢやう)まさかりなどあり行者此鬼をつれ初て
かつらき山へこけ入道をふミ分給ふと也其後山々の道ふミこけ
給ふとぞ其時ハ役ハ小角とし役行者役のうばそくと云し同人の事也山伏のはじまりとぞ

狂哥　良賢
野老(ところ)ほりあさミをかりて山人のくるをいふや鬼取か嶽

大森ハ鬼取か嶽の茂りかな　久任

目にや見えぬ鬼取か嶽の秋の风　野康

鬼取か嶽にや牙とこかの月　則武



○鷲尾山鷲仙寺祇薗院役行者開基本尊千手観音御長四尺寺
行基御作又山の腰ニ千手寺光堂の観音是も千手御長五尺こんけいの作也
上の寺へ行道十八丁か間ハ左右ニ千本の櫻の大木有色々の名木ノさくらあり麓ハ神並
の里薬師堂有ミうえしれせきうん建立とそ 此ミしのをの観音ゟ上ノ峯髮切山也是ゟもから切山のちへ道有
右ミしのを山観音ハ三面十一面千手 千眼秘佛也
千時延宝七年己未二月十八日ゟ三月迄開帳在く

狂哥

志らへかね上らぬ鷲の山の名を桜の花ニ誰もあそのく　正之

日

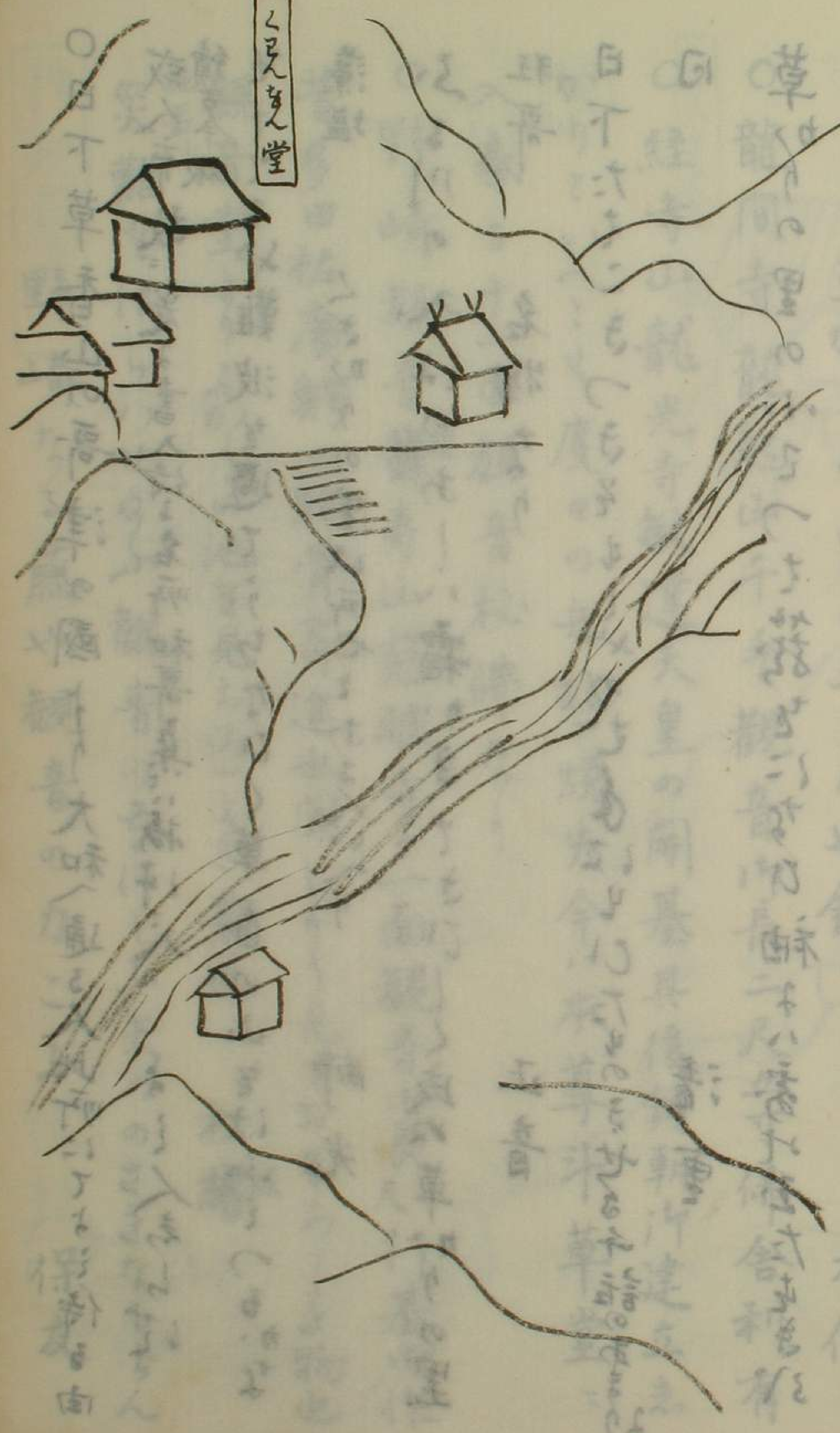
うへこれはうん見ぬミしのお山より出ぬる月ニ雲かたかとび　正音

鷲の尾や大悲の矢の羽月の弓　保友

月ハ一つ影や二佛のひかり堂　定圓 圃

葺狩もうへこぬ鷲の尾寺以

鷲尾山



○日下草香山の哥　津の國より大和へ通る人此所にてよミ侍る由
或人云り故ニ爰ニ書入侍る名所和哥集ニハ摂州ニ入
續古今旅　よミ人志らず
をしてるや難波を過てうちなびく草香の山をけふミつるかな
藻塩　くさかりの里此所也とある人いへり　師光
ふる川の入江のあしハ霜かれてさびしく成ぬ草かりの里
狂哥　名物なり　正音
日下たそこきつきそもしやのむまにもひたものきせる千話のあまりみ
同　清重
草かりの里の小ミつも籠をになひ袖ミハ露に玉たすき哉
同　次重
草かりのさとり得ぬれハ持鎌のミか心にこそ佛なりけれ

草かりの里の庭ゑや駒つなき　冨吉
草かりの里の三ヶ月や鎌のなり　元信
○龍間寺　龍起山千手観音御長二尺五寸佛舎利有
○経寺山　龍光寺敏達天皇の開基其後頼朝御建立志
かりといへとも度々の兵乱ニ焼失今ハ本尊斗草堂ニ
入奉る十一面観音秘佛なり
○野崎観音　福寿山慈眼寺十一面観音御長三尺行基御作
昔多田祐廣鰐の頭骨寄進也聞しより見ておそろしき物也
狂哥　観音堂よりふかうの池を見おろしよき景也　松緑
災難をはらハせ給ふ観音の弓にそふ矢ののさきなるらん
狂哥　野崎なる藤や観音の力こぶ　保友

○深野池(ふかうのいけ)大きなる池なり

狂哥

をのつから子の身の菱と成ぬへし親にふかうの池にあそハゝ　親吉

哥の理やふかふの池に鳴蛙　喜水

刈て行にふかふの池の菖蒲　如貞

顔回かふかうの池のうす氷　清次

○讃良(さゝら)々郡の名也　行家

さゝらる音はさらゝの河内路に駒をはやめてけふもくらしつ

綱引や所にきいふ忍いさらゝ　周國

俺ておれ比花一枝ひしけら　正之

○北条村松尾寺正観音金佛なり　御長一尺五寸

○飯盛山　昔の城跡也　檐枝

狂哥 いか汁雲の振舞いたしてか飯盛山にミゆる雪汁

日　　栄貞

山の名の飯もりぬるハ五畿内の河内なべまて焼すやあるらん

いけ立と飯盛山の霞かな　歩月

ふたをする飯盛山の霞かな　良賢

汁にまたや飯盛山のとろゝ花　冨吉

椎の葉に飯も盛山旅路かな　保友

白箸か飯もまやまの木々の雪　黒水

手つからや飯も盛山の雪おんな　檜板

雪佛飯盛山のしやくし哉　未口

○南野村起雲山龍尾寺正観音 御長三尺三寸 春日の作此山茶磨(うす)に似たり

とて世俗茶うす山の観音と云ふかりの池見おろし景面白所なり

○中野村小野山正法寺十一面観音座像あん阿弥の作伽藍旧跡あり

○中野村領内に鴈卒都婆と云石のそとは有いつの比にか有けん狩人此所に鴈雌雄有けるを見て則一羽射取て見るに首なしあたりを尋ぬれ共おちたる首有ことなけれハ甚不審をなせし明年又其所に鴈一羽来る狩人悦是をゐるに首を射はなしけり此首則おちて地に有又羽かひの下より鴈の首一つおちけるを見てあやしミをなしつくくとかんし去年ゐける所も同し所月日も同し月日なれハ此鳥去年射おとしける鴈のむくひりをまりて来つるにやとてあハれをもよほしける此時こその鴈の首の見ゝさるほとも思ひかんしていよく

たゝとを志ほりそれよりかゝるいとなつこを思ひとまり道心を
おこし出家となり此所にをゐてそとはをたてゝ彼島の
しるしとなせるによりて鴈そとハといへるよしいひ傳へ侍る
○岡山 恋ひの岡と古哥によミしハ此所の事也と申傳へ侍る
御陣五月五日秀忠公此山御本陣 慶長十九甲寅年依大坂
此山に寿命長久の杢の大木あり見性寺山号は
少林山と号ス本尊ハ正観音聖徳太子の御作也
御長四尺六寸あり
勅後撰
侍人になとかたらハて郭公ひとり志のひの岡に鳴らん
法印覚寛
夫木
登蓮法師
見し人を恋ひの岡の花すゝきなひくハ招く心地こそすれ
狂哥 法橋哥慶
うかうかと恋ひの岡の郭公音信せぬはかれ人ほかな
同 次重
年よれと忘りやいたさぬ恋よとて人目恋ひのおかし成けり
郭公なれや恋ひのおかた聲 一十
そちは誰を恋ひの岡の小姫ゆり 政公
紅葉そいつるおり山の色深し 同
○高宮村放生寺十一面ノ千手立像御長八寸
○秦(はた)村太子の臣下秦ノ川勝此所に塚有旧跡有
○此秦村ニ昔名鍛冶有後鳥羽院御宇十月の

諸番の鍛冶行國勅鈫を打上奉る此所より出る人也

ゆき國ま見まかふ霜の剱かな　定圃

桊村神宮寺十一面観音御長一尺三寸昔此所ニ名鍛冶数多有けるとそ

○寝屋村むかしのはちかづきのさうしにある長者ハ此所の事也長者屋敷とて今ま松原あり

○三井村京ノ本能寺尼崎ノ本興寺此三井の本厳寺此三ヶ寺ハ同し此所日隆大上人開基則日隆御自筆の石塔あり其外数多御自筆あり當一村ハのこらに皆法花宗他宗一人もこれなし

○中振龍光寺法雲山正観音太子の御作御長三尺

○同村光明寺延命山正観音ちつくの作御長三尺五寸

○茄子作村薬師堂あり　絲谷と云所あり

○米山

鷹百首

米山の峯とふ鷹のますかき七羽かたのかりの名さへなつかし　如元

狂哥

米山を知行ま取し人ハたゝ食に焼てもおたいゝ名なり　次重

日

米山のをかに積し俵こそゆふまいはまぬ分限なりけれ

蓬莱の米山なれや本たはら　岩水

米山をつゝむ霞ハたはらかな　則武

こめ山の白水ハ雪の雫かな　野鹿

米山またがりんて流る小米花　冨吉

米山や半分ましりの小米花　江戸 正次

米山やつくねんと見るもちつし　正俊

米山は見な杉ちへの若葉ハ　一利

たれも同まつく米山のうちも紅葉　江戸 常有

米山まふりしあられハきらきれ　河州尾木 正利

ふる雪ハおろし米山の詠かな　重次

米山も雨風してや寒さらし　江戸 重継

○村野観音寺天野山と号ス正観音御長三尺ちやうてうの作

○郡津(こうづ)村大堂山長寶寺十一面観音御長二尺

○星田妙現山小松寺の観音此山号ハ三寶山ふしと薬師堂在明星の池あり社あり　正之

狂哥

天の川ふりさけミれハ星田なる三日の月の出し山かけ

星田なる苗代水や天の川　虎音

蕎花をいよく見まくほし田代　常征

日てりにや雨ハ星田の植時分　呉水

鍬かたを打や甲(かぶと)の星田うへ　政公

五月雨ハ空まても見えぬ星田ハ　良恵

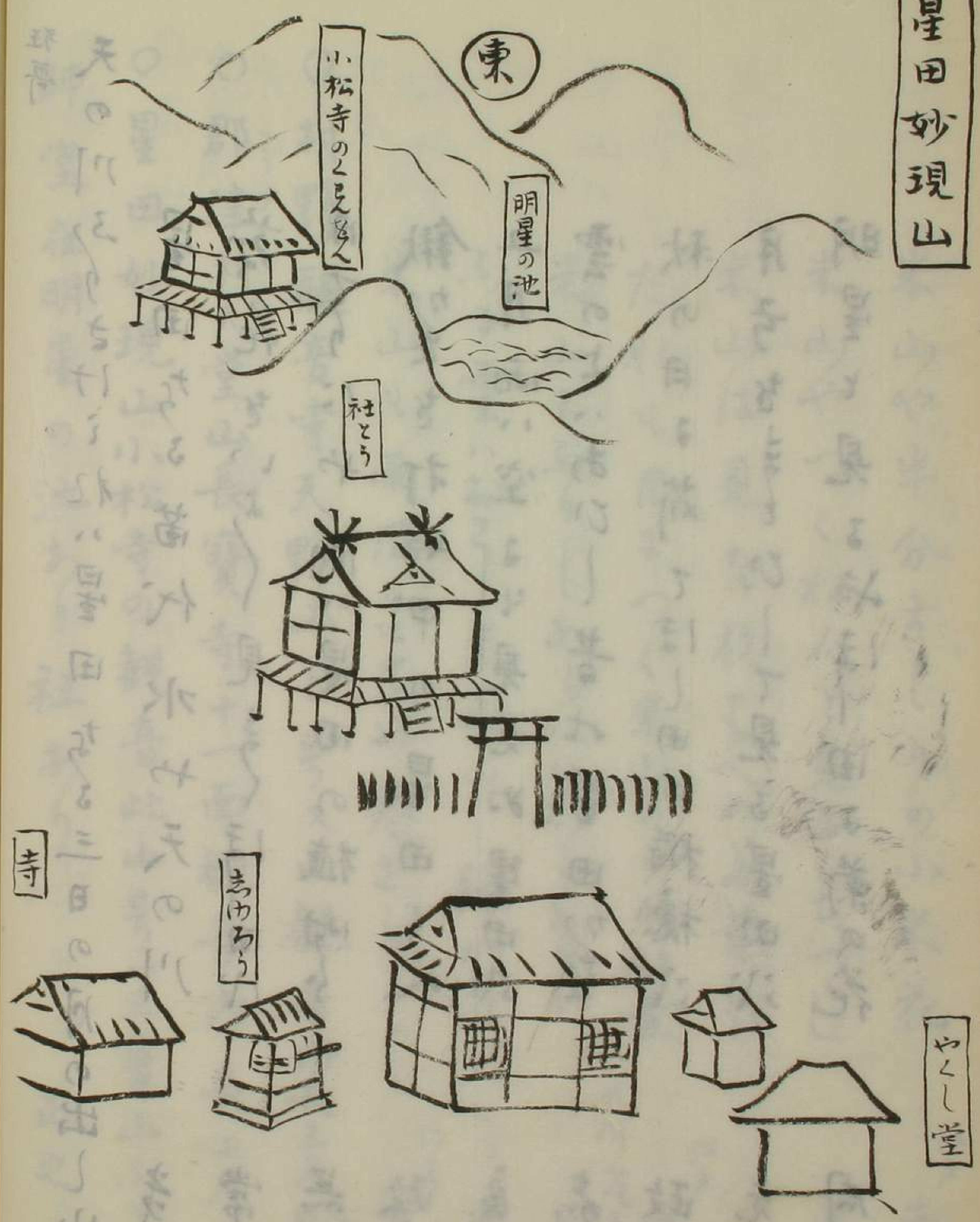
雲の上ハあひし昔れ星田かな　赤任

秋の日ま苅てほし田の稲穂ハ　政公

月弓をまとひして見る星田代　元由

明星と見るやほし田ま菊の花　周國

星田妙現山



○田ノ口安樂寺千手ノ十一面唐佛也
○藤坂嶽山明尾寺十一面觀音沛長一尺五寸
○因可池

土吟下
うき京れよるか乃池の祢ぬるハ乃祢ぬ雅ハ浪の下にくるしき　家隆

夫木
朝氷結ひまけりな白糸のよるかの池ハぬる鳥もなし　衣笠

狂哥
飼付まよるかの池の鯉鮒ハ朝とう烟をうたんためとや　友和

月
毎晩ま思ひよるかの池またしふかきハ君か心庖まこそ　次重

よるか池ひるに見てや飛螢　黒水

○鳥立原（とたち）

新古今
浅茅生をとたちの原をあさりつゝ交野のゝへまけふも暮しつ　前関白太政大臣

狂哥

わらにくや鳥立か原のほとゝきを名乗もあへす失なけるかな　隆玄

同

鷹犬も鳥立かはらやさきぬらんつかれくとせこれ夕飯　友和

天のあゝか鳥立か原にかゝる霞　定圃

打たゝく戸たちか原の水鶏ハ　好春

○福岡村息松山稱念寺十一面観音御長一尺二寸あん阿ミの作

○同　長尾山正也唐十一面観音恵心ノ御作

○尊延寺山号ハ波多山正観音金佛也御長五寸弘法か作五大尊弘法か作

○私ア長寿山光通寺如意輪観音座像御長一尺寺

後村上天皇の勅願所開山別峯和當禅

○森村ノ圓通山須弥寺千手ノ十一面春日の御作御長二尺八寸

○私市観音寺如意輪観音座像

○岩船山八間斗り岩舟山ノ頭ニあり一般有　川瀧あり　六月晦日ニハ参詣群集する也

○獅子の窟寺普見山行基菩薩開基

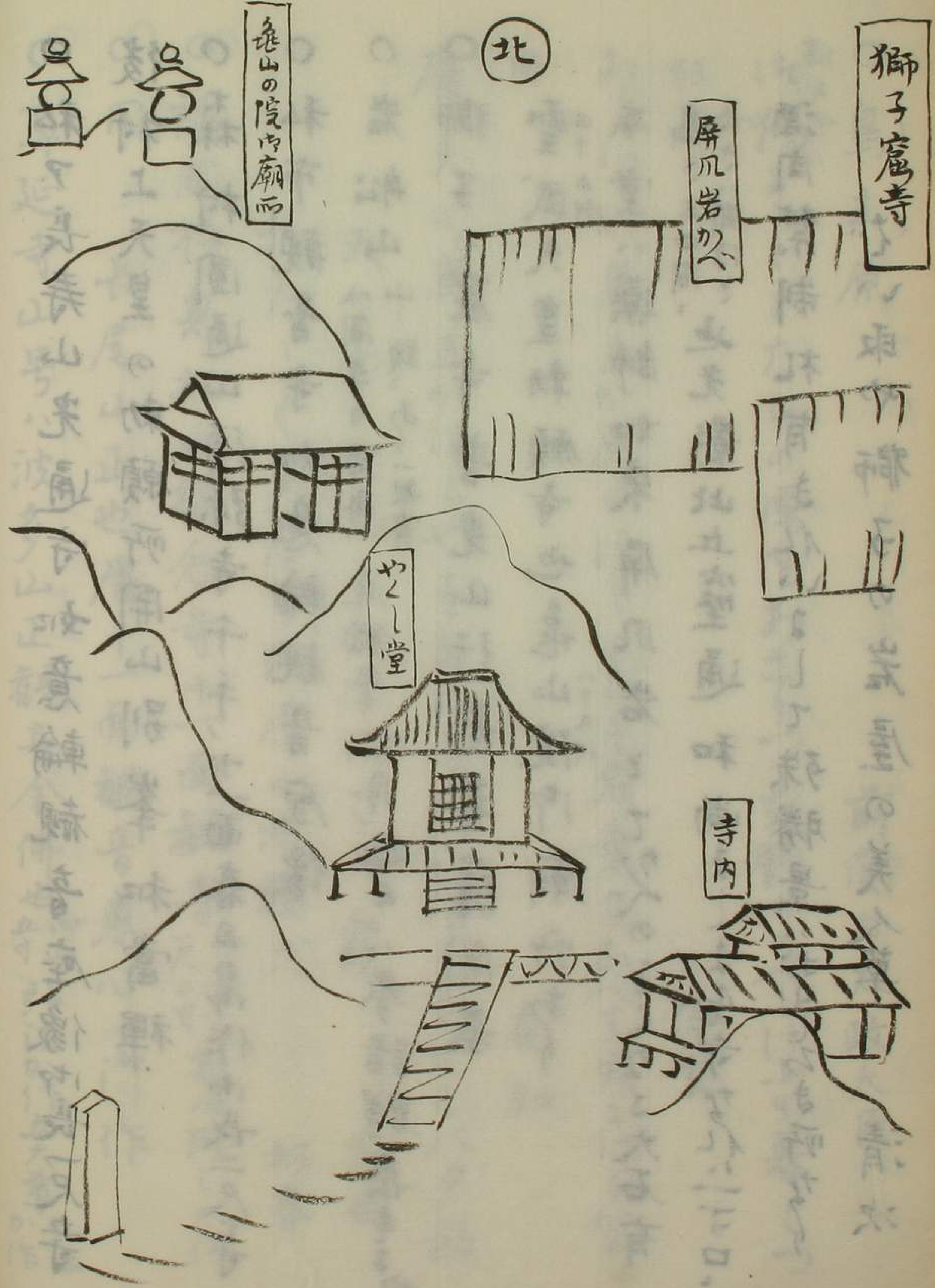
聖武天皇四十五代勅願寺也亀山院八十九代御廟所あり

本堂ハ薬師如来屏风岩とてかべのとくなる大石有

高さ三四間ニ長さ八間ほと也光影此丘空通和尚ましませ寺なれハ一丁口ニ

酒肉禁制札有きれいにして殊勝景ハおもしろき所なり

むい取や獅子の岩屋の美人草　清次

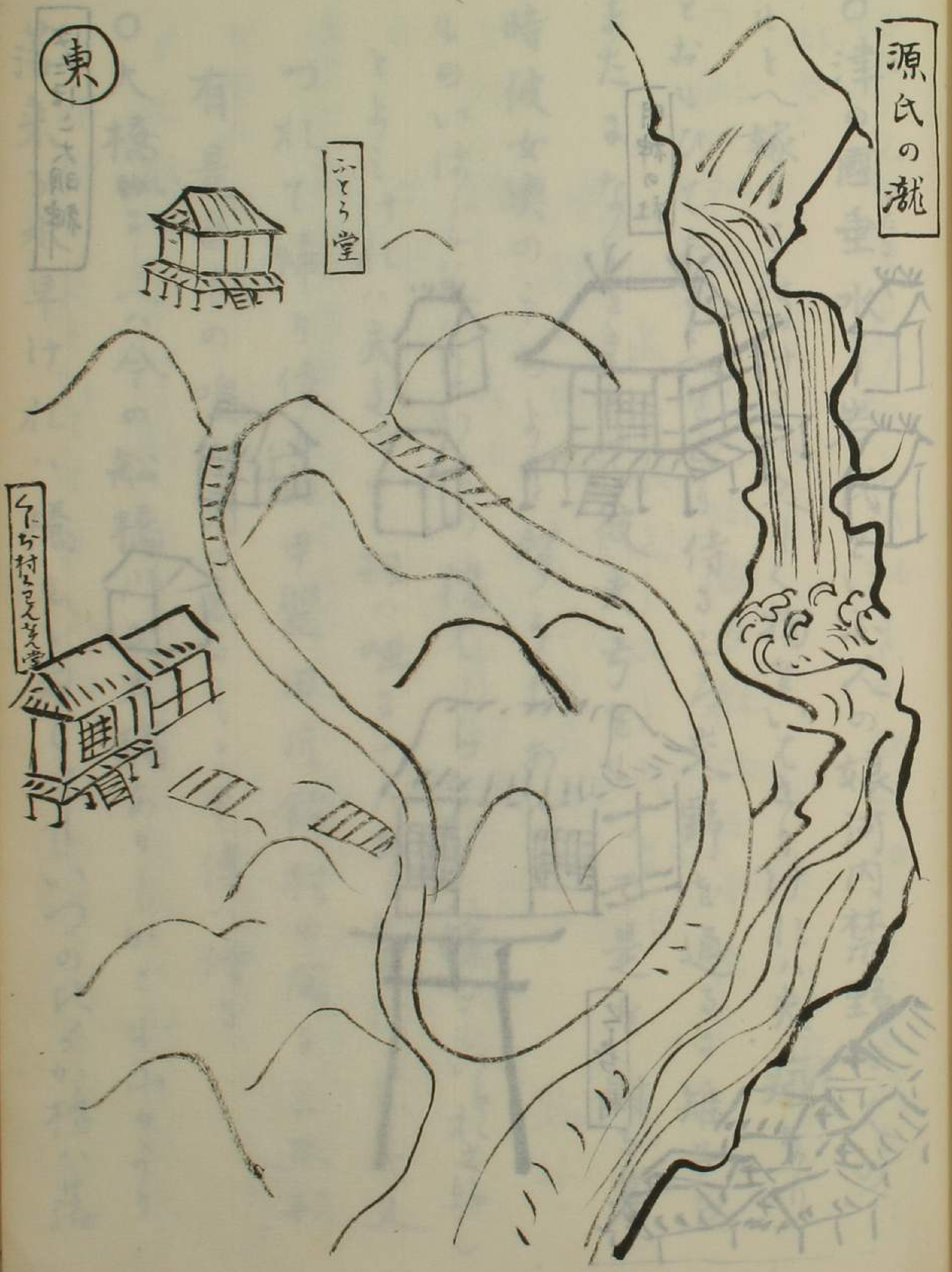


すさましき獅子か岩屋ののきばに　正音
十六夜志この岩屋の月見かな　周國
冬籠里居喰を獅子の岩屋に　忠昌

○百重か原　鴨長明
夫木
うたのなかもこへかはらをつかのまも戀きぬあらん花の都を

狂哥　次重
送る文の数ハ百重かはら立や我ヱ一度の返事たまはせぬ
花の場や百重か原の幕つくし　江戸 重継
ちる露や百重か原く菜うり　徳清

○大念佛宗の本尊かけ去
名ハ髙し本尊かけ松郭公　典僧



○野村妙音山傳福寺正観音行基御作御長三尺五寸

○鴻尾山山の頭ニ八間四方の岩あり観音岩と古しへより申傳る正観音の梵字石之中ほどニ弐尺四方斗ニ書ほり付て有又此石の中程ニ六十六部の法花経紺紙金泥ニ書一部石をほり中へ納め入上ハ金泥にて経を納し由書付あり南ノ方ニ三間斗ノ石いくつも重て有是ハ三寶荒神の梵字あり拜殿あり鳥井あり北ノ方ニ六間四方程ノ石有大日の梵字まて有けると申傳る

○此山の北ニ源氏の瀧と申傳ふる有瀧へ上る中程観音堂在り瀧本山清正寺と云本尊如意輪御長一尺三寸瀧本の山ノ上ニ不動堂有西方ノ山面白景ノ所也麓ハ倉治ノ里也

鴻の尾の矢にはま入や月の弓　久任

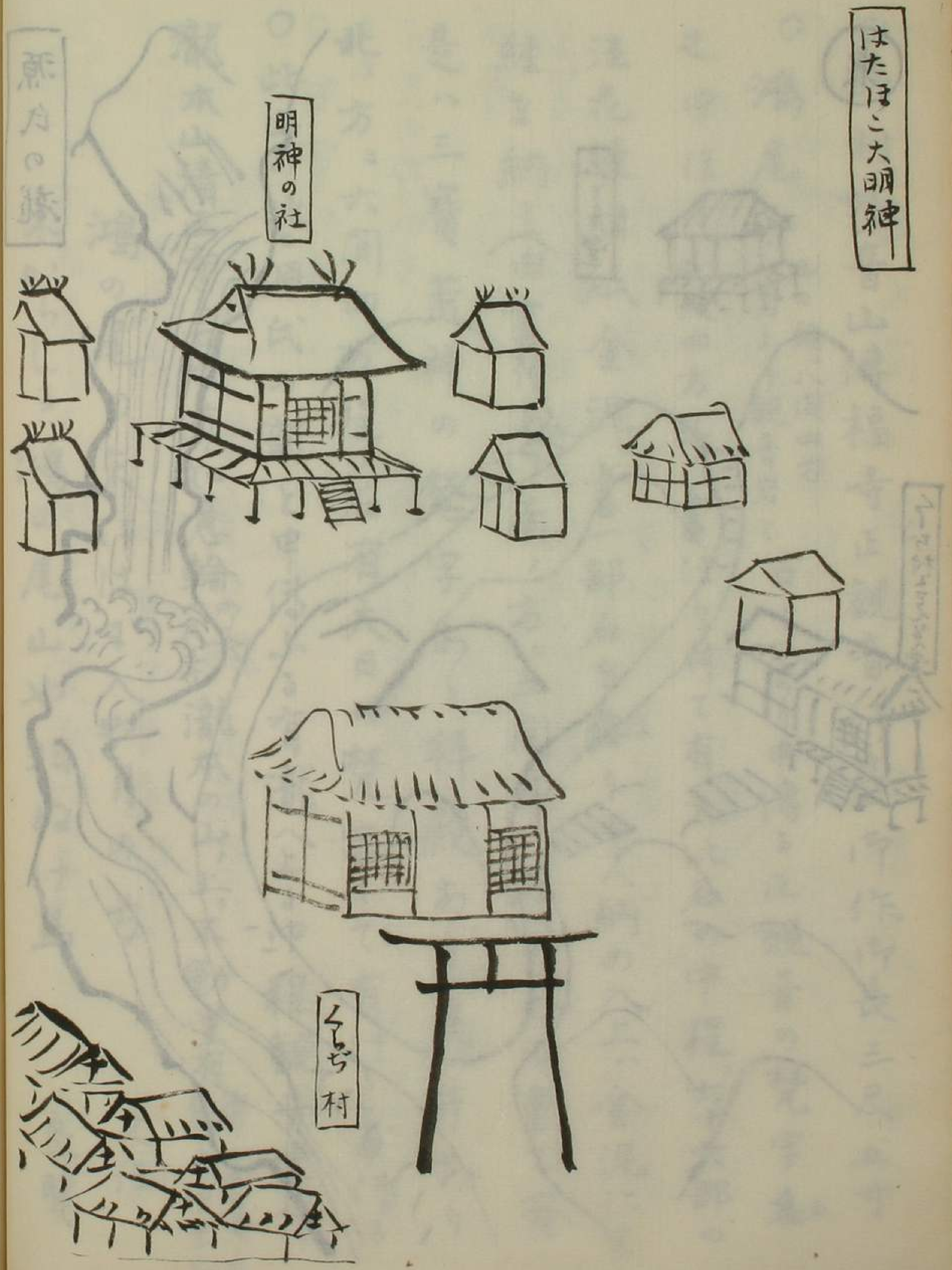
木からしま鴻の尾山や羽ぬけ島　良賢

○津の國垂水に岩氏といふ人の娘河内禁野の人のもとへ嫁して行けるに久しく物をいえざりければ夫瘂なりとおもひてたるみへおくり侍るころ交野を通るに雉子ちまたになくをきゝて彼夫弓をもつて是を射る其時彼女輿のうちより哥うちあけて

ものいはじ父ハながらの橋はしらなかずハ雉子もいられざらまし

とよみけれハ夫きゝて扨ハ唖にてハあらざりけるとて又つれて帰り侍りぬ甲斐田片鉾村の間に三本杉有是きじの鳴し所のしるしと申傳へ侍る

○大橋いにしへハ今の船橋川に大橋ありしかとも山々より落来る水早けれハ橋も流しすていつの比かハ橋ハ落



て船橋となりけると有人語り侍りきさるによりて比川
を舟橋川といひ傳へ侍る所是羽川といへるハ此川の事とそ

万葉九

しなてるやかたあすハ川のさふぬりの大橋の上ゆ紅のあかもすそひき
よミ人しらす　下ハ略く

同

大橋のほとりに家あらハ心いとく独行子に宿かさましを

大橋は咲きほこりし花見かな　政公

川の名や氷ふミぬく所是羽　意朔

○洞か峠山城河内両國之堺松三本あり

狂哥

きのふの貝ふやほらか峠よりぬけかけをせる花軍ハ　正音

河内名所記巻六

下ノ太子　澁川郡

木ノ本　丹北郡

亀井眞観寺　澁川郡

澁川村　同前

久寳寺観音　同前

同村西本願寺御堂

鞍作　同前

衣摺（きすり）　同前

蛇草（もぐさ）　同前

髙瀬　茨田郡

茨田（まつだ）寺

䏻登瀬川　同郡

野口　同郡

清水　同郡

守口　同郡

村ノ名一番と云ヶ十番と云迄有　同前

佐太宮天神　同前

佐太池佐太川　同前

岸田堂観音　同
成法寺　若江郡
東郷　同前
八尾鴬　同前
八尾地蔵　同
八尾表合戦打死衆　同
八尾東本願寺御堂　同
穴太　同前
若江観音　同前
若江鏡神社　同前

梶村来迎寺　茨田郡
八番村光明寺　同前
伊加々崎　同前
牧方　同前
萬年寺　同前
大垣内
天川　交野郡
百済王ノ姫ノ塚　茨田郡
竹川　交野郡
禁野　同前

若江三好城跡　同
若江合戦山口伊豆守打死碑銘
萱振　同前
玉串　同前
岩田八幡　同前
通川　同前
稲葉里　同前
新開き（しひら）
内助か淵
河田森　河内郡

中宮観音　同前
中宮百済王宮　同前
交野
嬰児山（ことりこ）　同前
波瀲（なぎさ）　同前
宇山　同前
養父　同前
一ノ宮　同前
楠葉　同前
釈迦堂　同前

玉田横野　茨郡

會尓賀市（ゑにかのいち）　河内郡

金橋（こかねはし）　交野郡

○下の太子　勝軍寺　澁川郡

山号ハ椋樹山太子十六歳の七月に守屋と軍したまふ
四度の御合戦三度迄御まけ三度めに守屋のかさじと
追かくる太子御命あやうく見えさせたまふ時野中に大き
なる椋ありいかなる椋とのたまへハ二つにわれ太子御馬にめし
なから内にかけ入たまふに此木もとのことくに口あひて常にかハ
らねは今迄見へさせたまふ太子ハ天へ上りたまふか地に入たまふか
と詮かた尽ておつかけし兵共帰陣を時に此木又われさけて
太子出し奉る太子又御馬共にかけ出たまへハ又もとのことくに口こそ
あひにけれ扨太子此木にむかハせたまひ三拝してのたまハく神妙
成ハ椋汝非情たりといへ共今日我をたすくる守屋を討て後

此恩のため此所に伽藍を建立すへしとの給ひしと也扨四度
めの御合戦に太子四天王へ願を立給ひぬるての木を以て
四天王の像を作り臣下共の頭髪におかしめほこさきにもた
てさせ給ひ我今敵にかたしめ給へ四天王のために四天王
寺といふ伽藍を建立すへしとの給ひけるとそ二また竹を
はたさほになされ御馬にめし守屋か城へおしよせ給ふと也
守屋か城と申ハ東北ハくたら川南西ハ堀をほり矢倉四
十八有けると也城中に高さ十丈余の榎木あり故ニ榎木の
城といひしを籠城の砌惣廻りの塀矢倉に稲をかけな
らへ榎にもいねをかけ太子ハ常にいねを廿五のほさつと
の給ふ故に矢をはなつ事成ましきと思ふ心にて掛ならへ稲

村か城と名付しとなりおなしき三日七申の剋ばかり守屋榎
木へ上りものゝべのふとの大明神の矢と云てはなつ矢太子の
御あぶミにあたる其時太子跡見の赤檮(いろひ)に命して定恵の
弓に六ツ目のかぶら矢を四天王のいさせ給ふ矢そとてはなた
しめ給ふにかぶら矢とをくなりひゝきて守屋か胸いたにあたりけ
れハ守屋さかさまに木の上よりおちて城中の兵共ゝなと
しくさハきしか川勝やかて守屋か頸をそきつたりけるは首洗
し所を血ノ池と云(又千首池共申也)此首埋し所を守屋塚と申也かぶら矢おさめ
給ふ所をかぶら矢塚と申也扨太子椋にむかひ四句の文を

神妙椋樹悲母木　我身出生廣大恩
紹隆佛法今成就　日日影向不退轉

かやうにあそはされしと也其比此所ニ堂塔伽藍建立あり
則寺号をいくさにかつてらと書て勝軍寺と名付なふと也
又願成就寺共申也其後度々の兵乱ニ炎上し今ハ一宇の堂
のミ有則太子十六歳の御髪の御くしにうゑさ
せなふ御自作也御長二尺斗ましまし秘佛ニて開帳まれなる
御事也御植髪の太子と申也御父用明天皇孝養の御すかたとそ

一 佛舎利　一 百済國ゟ渡りし如意輪観音

一 太子御自作四天王　一 蘇我大臣作ノ毘沙門

一 太子御筆ノ三千佛名経一巻　一 秦ノ川勝作ノ持國天王

一 弘法御筆ハ御経一巻　一 光明皇后御筆の大般若一部

一 恵心御筆ノ薬師如来　一 弘法御筆ノ不動明王

一 金岡筆の十一面観音　其外具宝数多有書尽しかたし
椋木ニむちまれなひ出生ましなふ故ニ人の誕生ニ似たれハとて御母名
のとくニ思召悲母木と名付なふ又戦勝木共名付なふ椋木へ
かけ入なふ時の駒のひつめ石ニのこれり勝軍寺記文 笠置解脱上人 の筆也
稱名院殿天文の春の比紹也をめしつれなひ吉野高野参詣
ありし道中ノ記ニ日ましへうむくの木のある寺に参り彼
木の本を拝本堂へ参太子の御影開帳ハなきよし
語りしかと案内ましれる人ひそかに申てひらきけり

此御哥二首ゟ拝ゐるとそ　稱名院

屈ろくをくとんわかいきんむくれ木のむくつけきまて向ふ面かき
又古しへの跡も木ふかき中とめて駒引むくる春の若草

狂哥

もろくの願成就寺と聞からに誰も佛の前へむくの木　元信

月　正音

かぶら矢にあたりてなかる血の池の水のあハれな守屋大臣

甲冑を太子や御勝もな軍　保友

植髪の御影や岸のさし柳　祐可

此寺の花ハ太子かちごさくら　六松

花軍哥仙や一巻勝軍寺　河州木本 忠之

ちる後やあくら川の花の波　宗直

むく鳥の巣や悲母木の養子　祐可

軍して血の池となせかたつかな　政公

はへそふやかぶら矢塚にうつほ草　伊永

名にしおハゞ来なけ馬蹄の沓手鳥　宗継

茂りぬるむくや太子のかくれみの　久任

椋木ハ人影もせぬしけりかな　家次

月やたゞ子影かくさむくの木のしけミ　定圃

くされてハ血の池なれや足の蛭　呉水

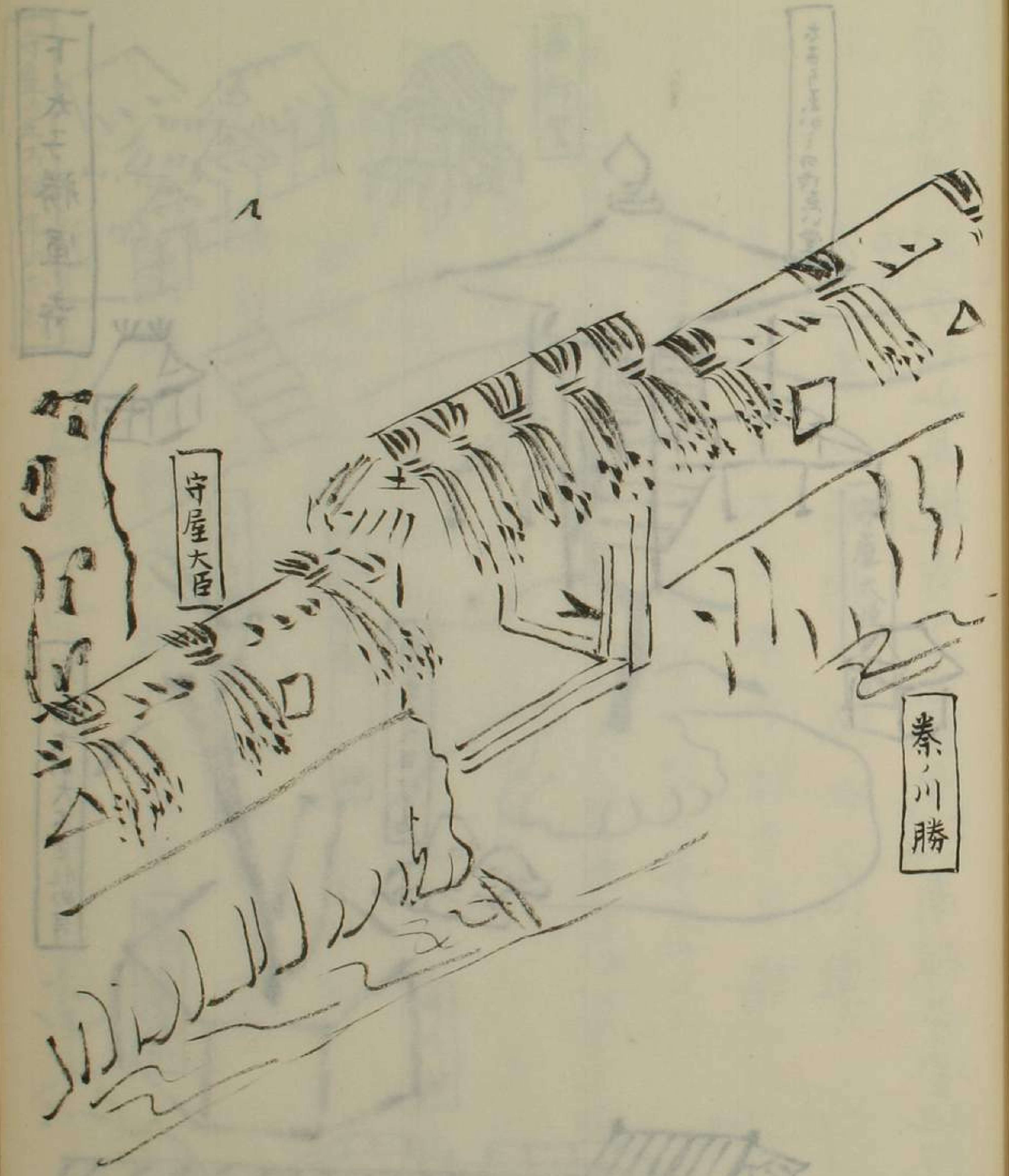
うぶ毛まで知やうへ髪の太子桃　成之

かくれ子をたつねしも里や旁の中　全栄

血の池ハ月のさハりのも里やハ　湛良

いな村か城か稲ほきそ守屋塚　愚蛙

首かりハ稲村か城の落穂かな　柳花

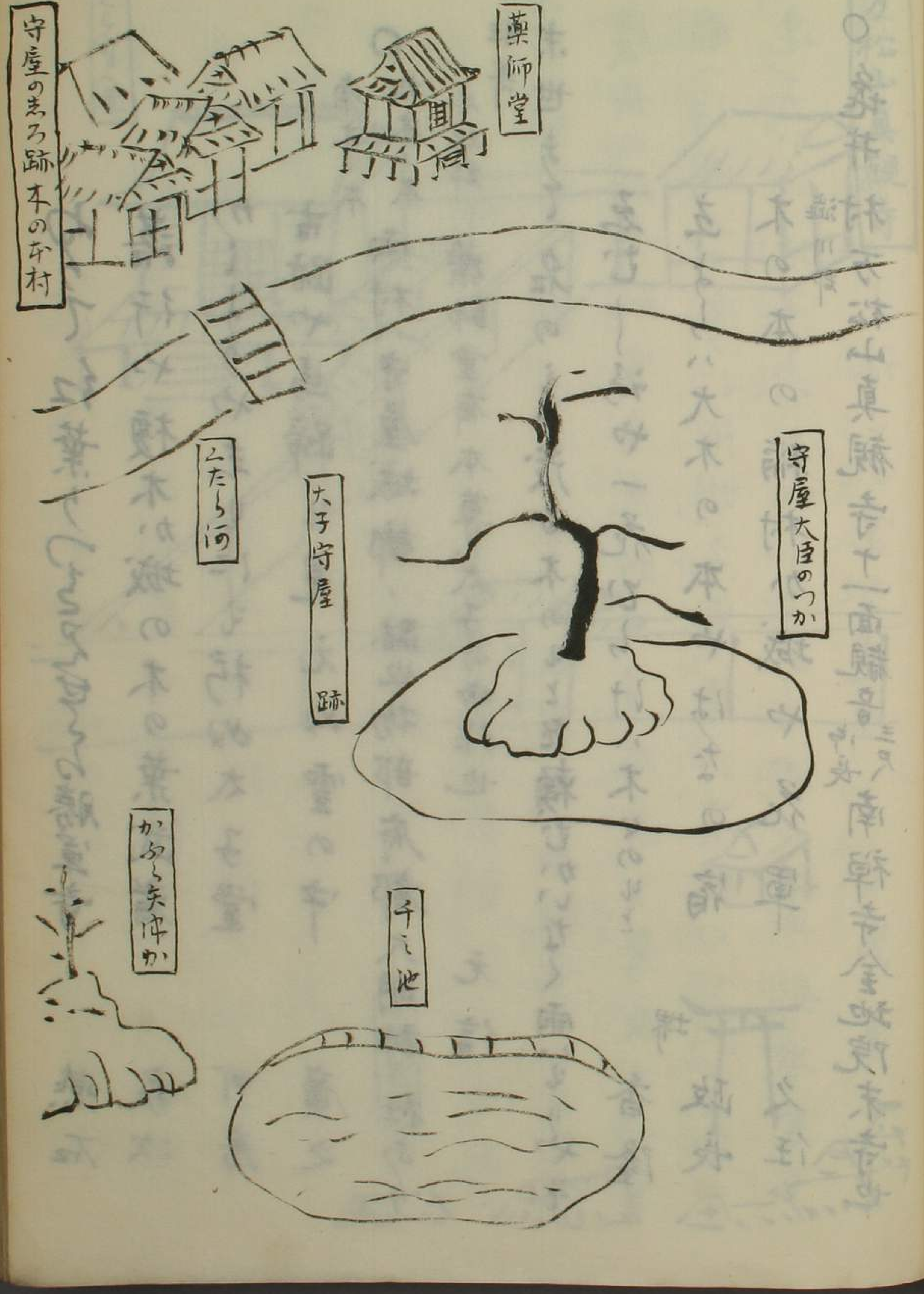


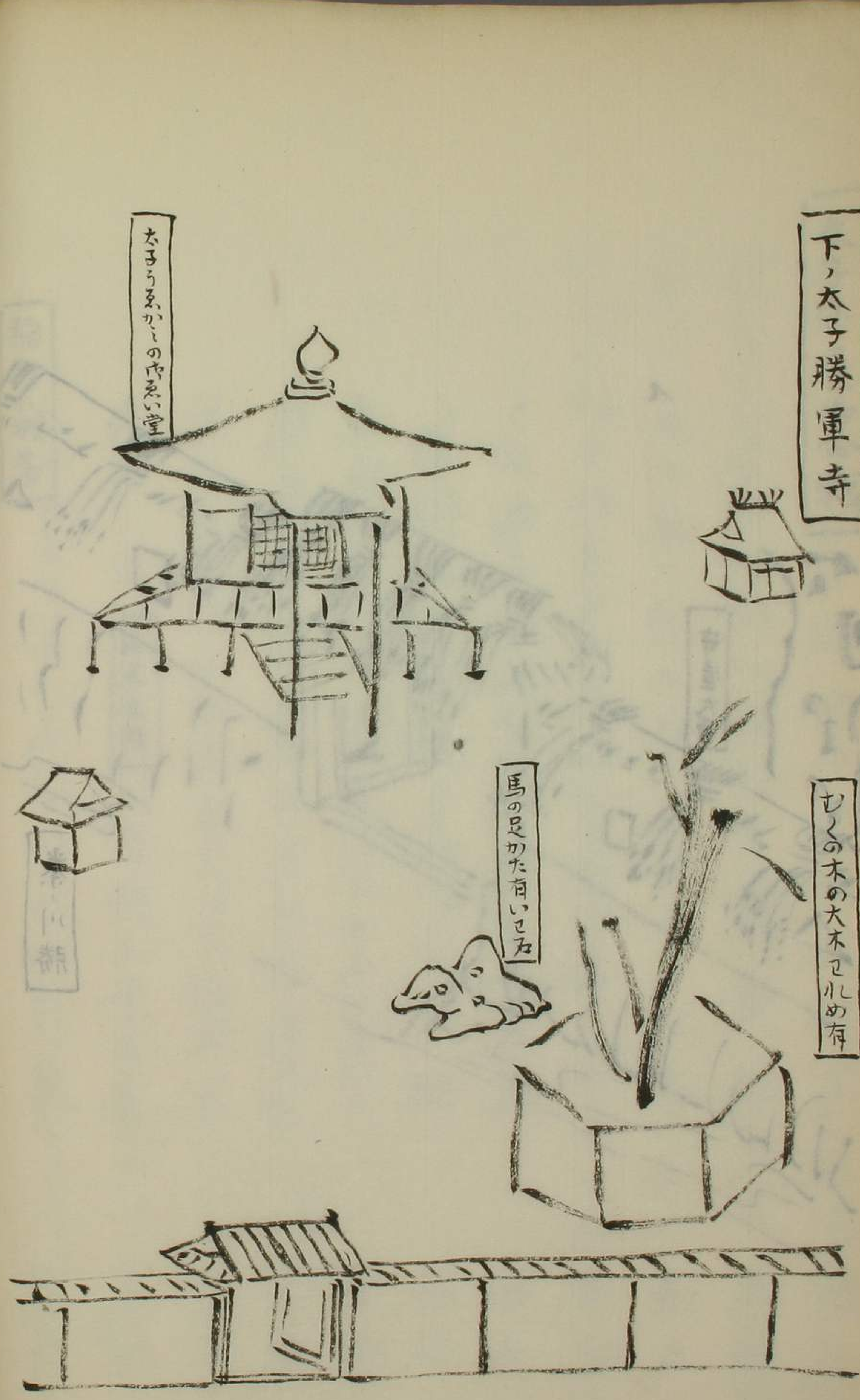
稲村か城落

太子守屋か合戦

跡見ノ赤梼

太子黒了ロ


守屋のしろ跡 本の本村
薬師堂
ムたら河
大子守屋 跡
守屋大臣のつか
かぶら矢冲か
千ゞ池


下ノ太子勝軍寺
太子うゑかゝのやゑい堂
馬の足かた有いし石
むくの木の大木己しめ有

ねりて紅葉りつちて世ぐる勝軍寺　燕石

落行や榎木か城の木の葉武者　家次

かことよりや志ともにも朽ぬ太子堂　可房

古跡や馬蹄も見えぬ雪の中　廣之

○南木ノ本
北木ノ本　両村ハ守屋城郷ノ跡也物部府都大明神ノ社あり

志紀郡　薬師堂有本尊ハ太子の御作也　元信

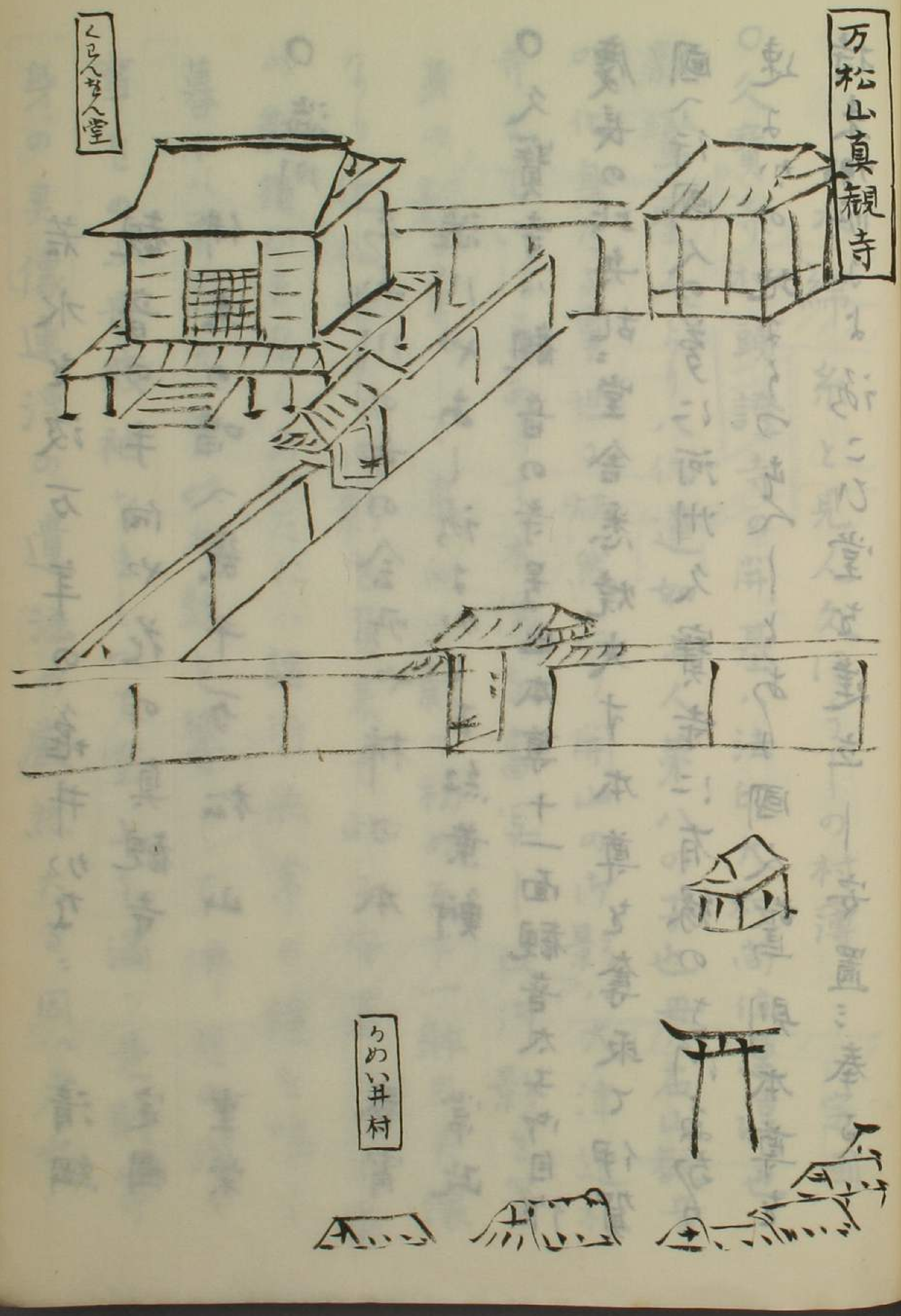
狂哥
末世まて名のこハ茂る木のもとを頼むかいなく雨ハもりやそ

忍むし袮や一花ひらけハ木々のもと　堺　香隆

立よらハ大木の本やはなの宿　政長

木の本の稲村か城や花軍　久任

○亀井　澁川郡
村万松山真観寺十一面観音御長三尺南禅寺金地院末寺也



若水を汲万年の亀井かな　清綱

観音の手向や花の真観寺　定圃

佛名の唱へ幾千万松山　重栄

○澁川

しふ川の斎の会所や柿の本　春宵

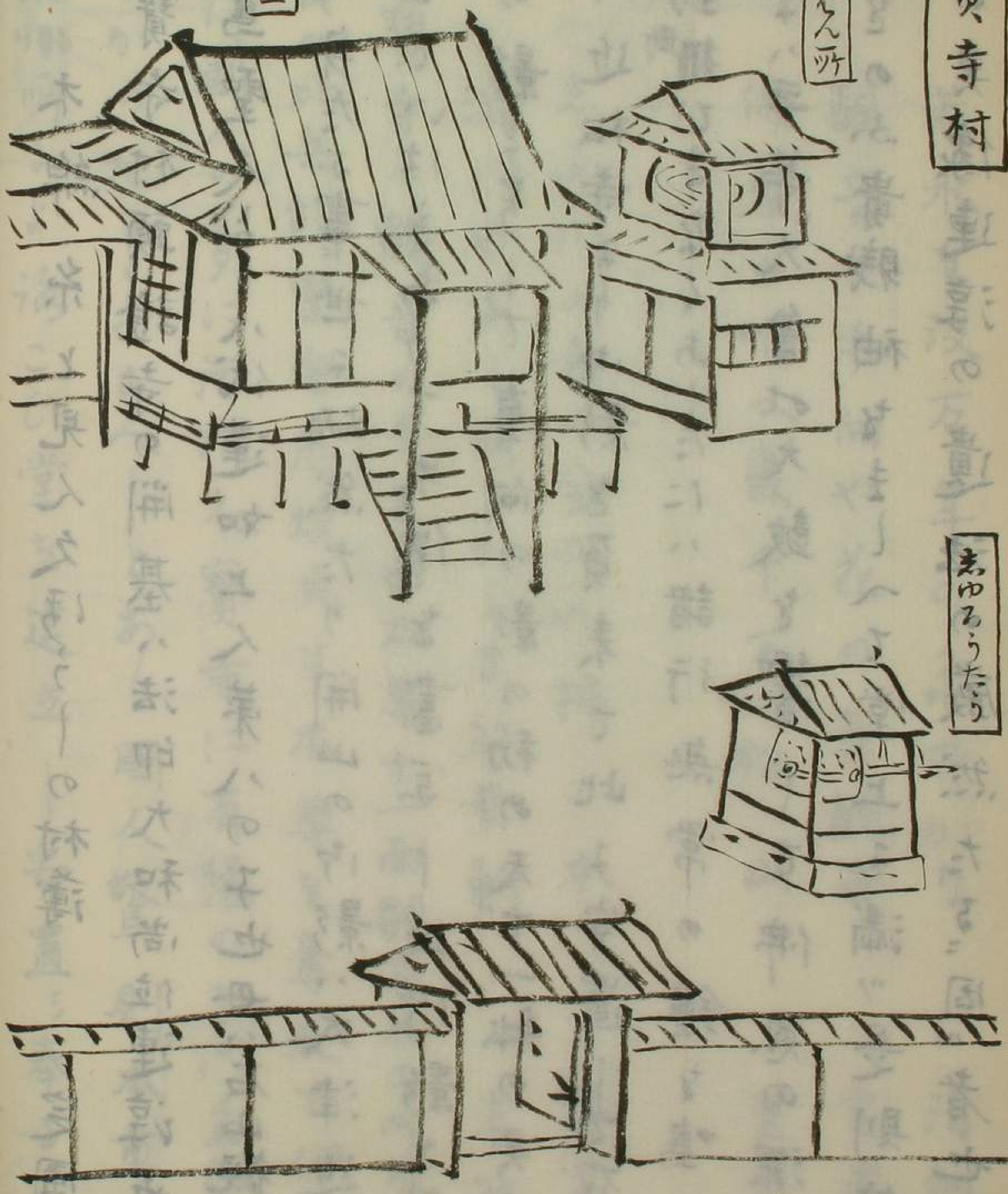
澁川やあし波にかゝる紅葉鮒　常政

○久寳寺ハ観音の寺号也本尊十一面観音太子御自作慶長の比兵乱ニ堂舎悉焼失す本尊を奪取て伊賀國へ行國人の夢に河州久寳寺に有縁のさ川多あり速まかの地まうつまんしとあり國人驚則本尊を持来り所よ汲こひ堂を建立し安置ニ奉る

木綿糸と見ん久ほうしの村薄　定圃

○久寳寺村顕證寺の開基ハ法印大和尚位蓮淳也親鸞聖人より八代蓮如上人第八の子也母ハ石山観音の化身たる事世ニ炳然たり開山の御影ハ大津近松寺まていはきありて木像を書写し此御影き等身の影と号して真向の影の初め天下一躰の尊像なり近松寺より御影を負来て此ニ安置して不退の勤猟(断)ひまなくあしたにハ諸行無常の鐘を鳴し暮ニハ平等大會此大鼓を響して佛恩の深き事をのふ貴賎袖をましへて堂上ニ満ツ是則等身の尊像蓮淳の遺法の厳然たるニ因ル者也

久寶寺村



○鞍作村太子の御代の時百濟國の佛師多須那
が子ニ鳥といへる佛師此所ニ住ス

○衣摺村　榎大木あり

狂哥
行人も爰にきすりの神木のえの木かねたる下涼こハ　正音

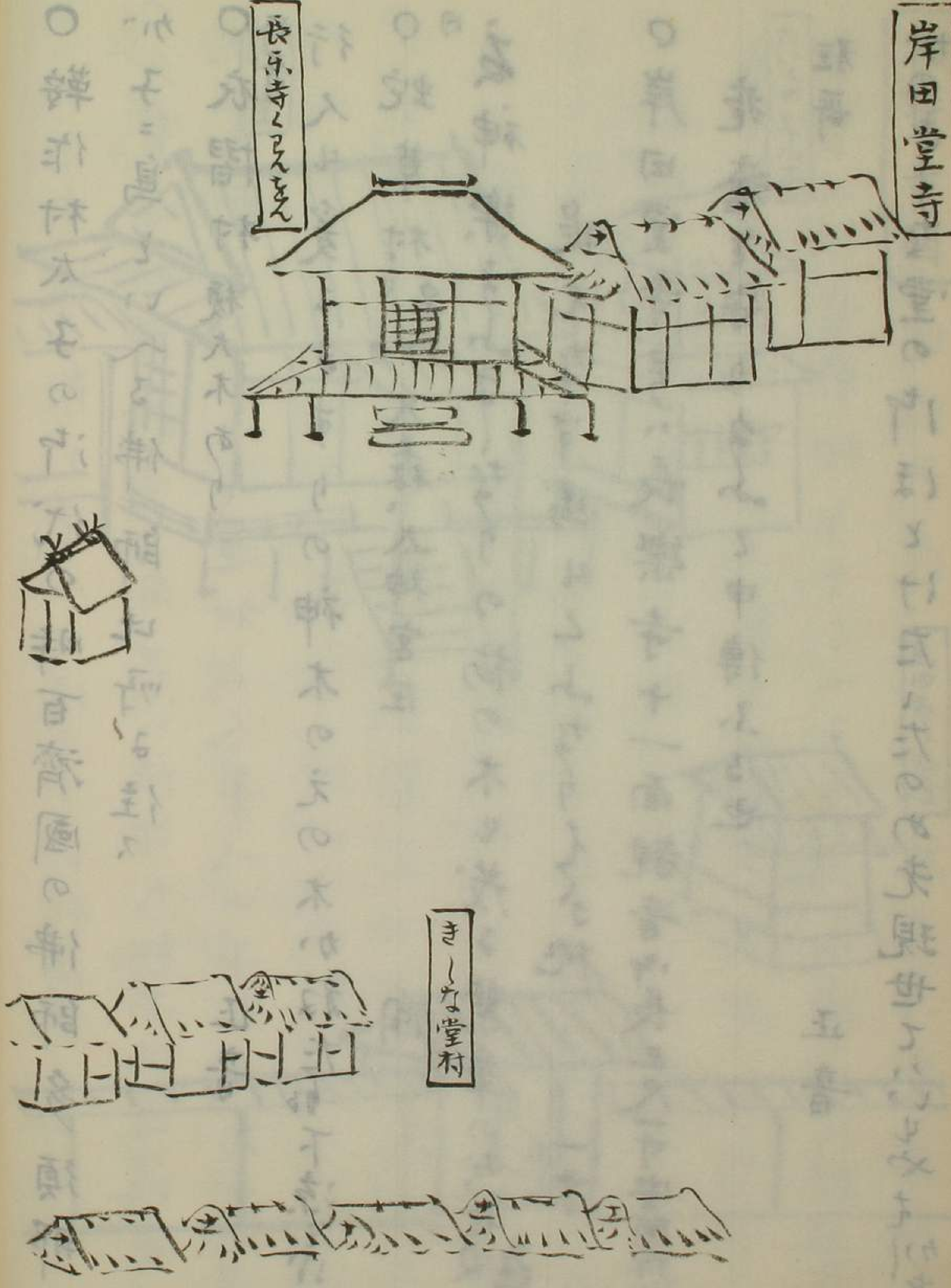
○蛇草村もゝの名所 大森ニ太神宮在

日
夜神樂まふすなりの榊の木も茂る葉草のおいせ迄　同

追えなす馬もくふなりえくさ桃　一十

○岸田堂寺号ハ長樂寺十一面観音御長三尺一寸安阿弥作
疱瘡を守りたまふと申傳ふる也

狂哥
かのきしな堂の御ほとけたゝたのめ先現世てハいもやえかしを　正音



○成法寺村慶徳寺正観音恵心の作なり
○東〃村石の高地蔵あり
○八尾ニ谷小路と云所あり鶯の尾羽八枚ありけるが来てさへつりしより村の名を八つの尾と書と申傳へ侍る此鶯夜毎ニ南の森ニ宿りける其所を八尾木と書とも也

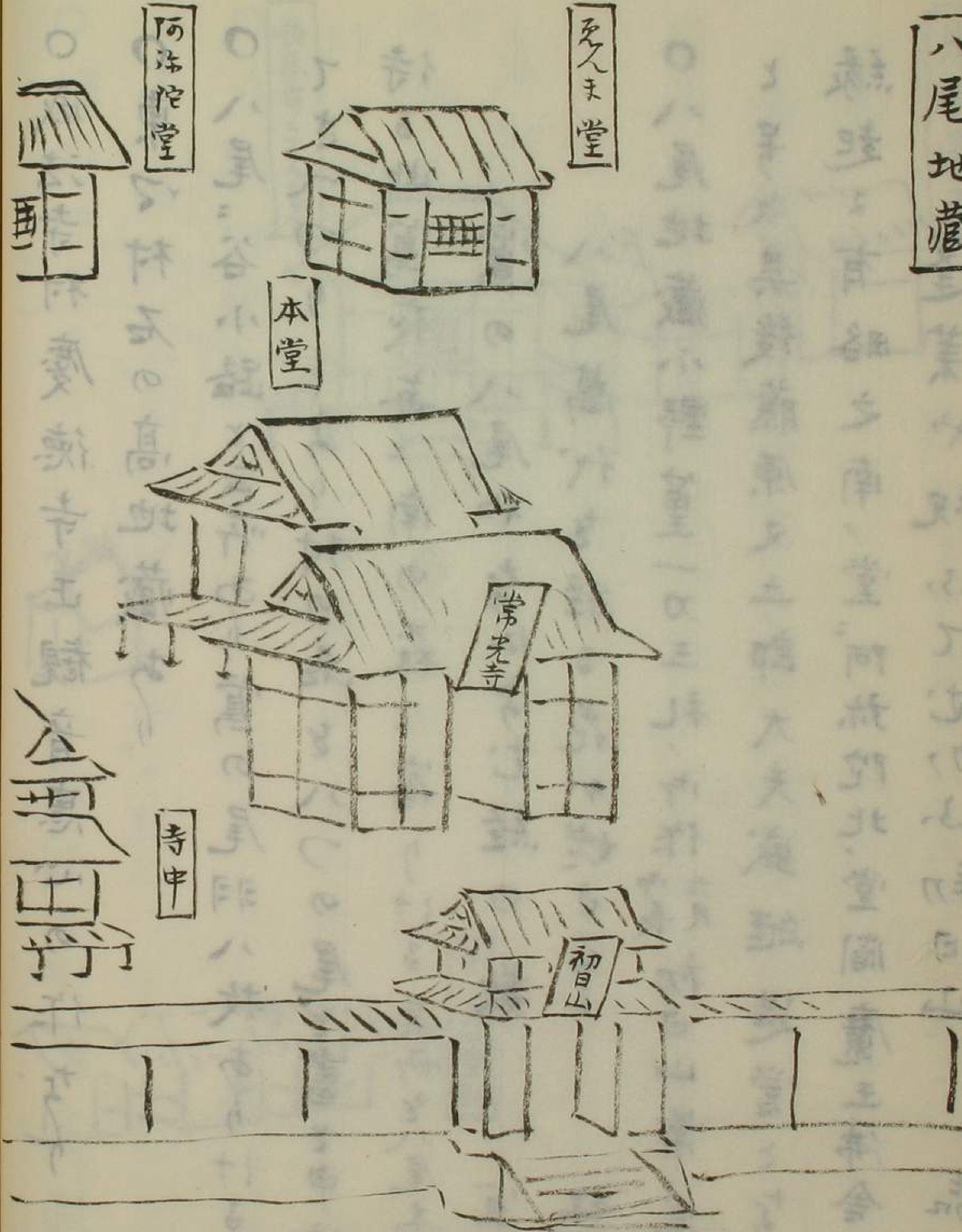
鶯の八尾やなかよむ経の数　宜休

八尾萬代を経る花か娩さくら　林城

○八尾地蔵小野篁一刀三礼ノ御作御長六尺初日山常光寺と号ス其後藤原又五郎大夫盛継造営となり委縁起ニ有略之南ノ堂ニ阿弥陀北ノ堂閻魔王佛舎利有

逢茉や祝ふてむかふ初日山　嘉任

八尾地蔵



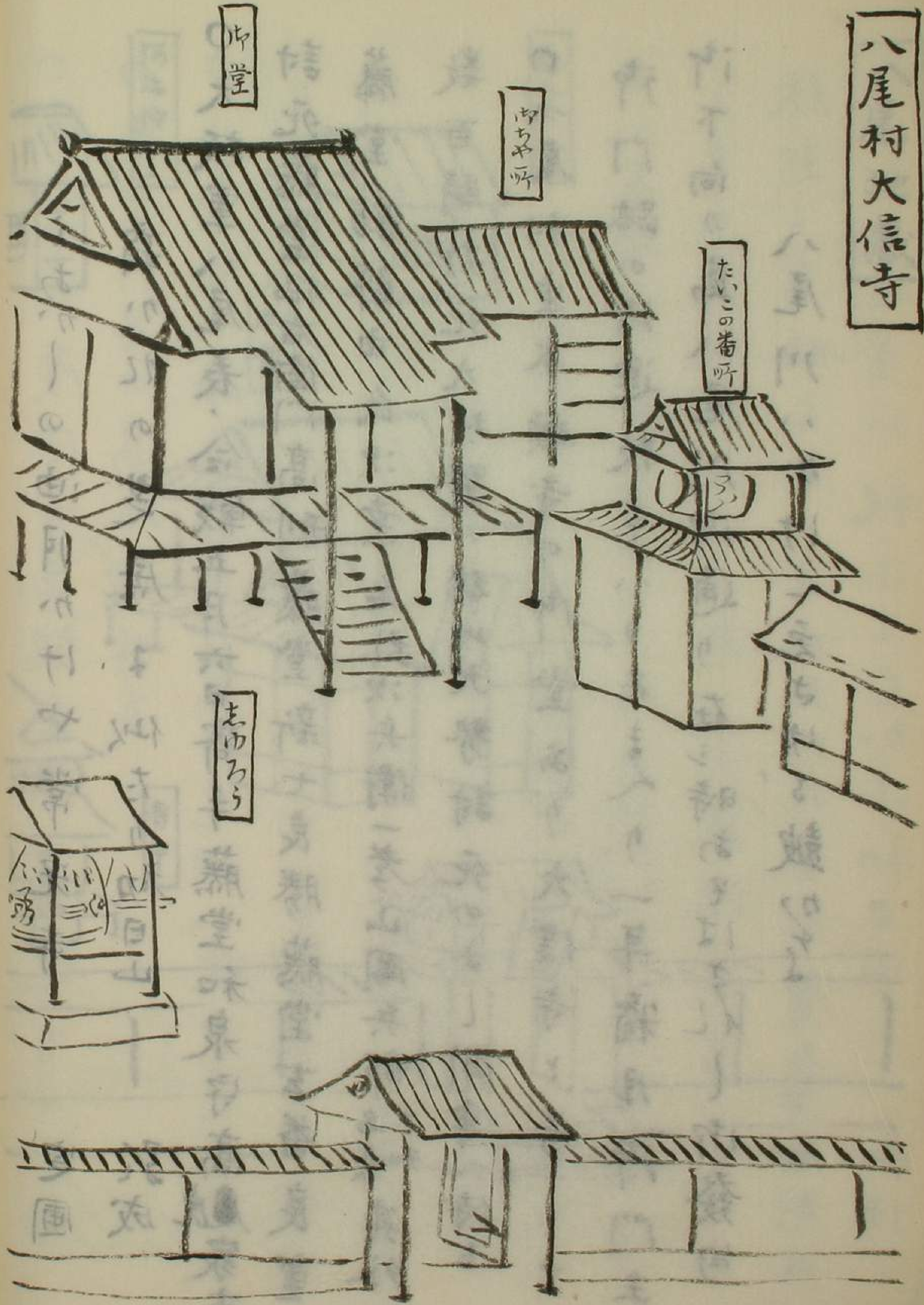
ミあかしの油月かけや常光寺　定圃
霜かれの芝居に似たり初日山　弘成

○大坂軍八尾表ノ合戦五月六日寄手藤堂和泉守高虎家士討死藤堂仙右衛門高刑藤堂新七良勝藤堂玄蕃良重藤堂勘解由氏次桑名弥次兵衛一孝山岡兵部名乗不知其外数百騎打死大坂勢ハ猶以大勢討死のよし聞傳へ侍る

○八尾村東本願寺の御堂あり大信寺と号して御門跡の御連枝をいりたまへり一年霜月御門主御下向の節八尾川御通り在シ時あそはされし御發句

八尾川いかけこゑさゆる皷かな

八尾村大信寺



○穴太（あなふ）村大日山千眼寺旧跡天照太神春日住吉社あり

○若江村観音びぢよ御前のまもり観音と申傳へ侍る

○若江村鏡神社塚本神社かゞなりの手形石とて有

狂哥　政安

老もせぬいつも若江の里に住めばかゝゝの神の御かけとそ思ふ

同　正之

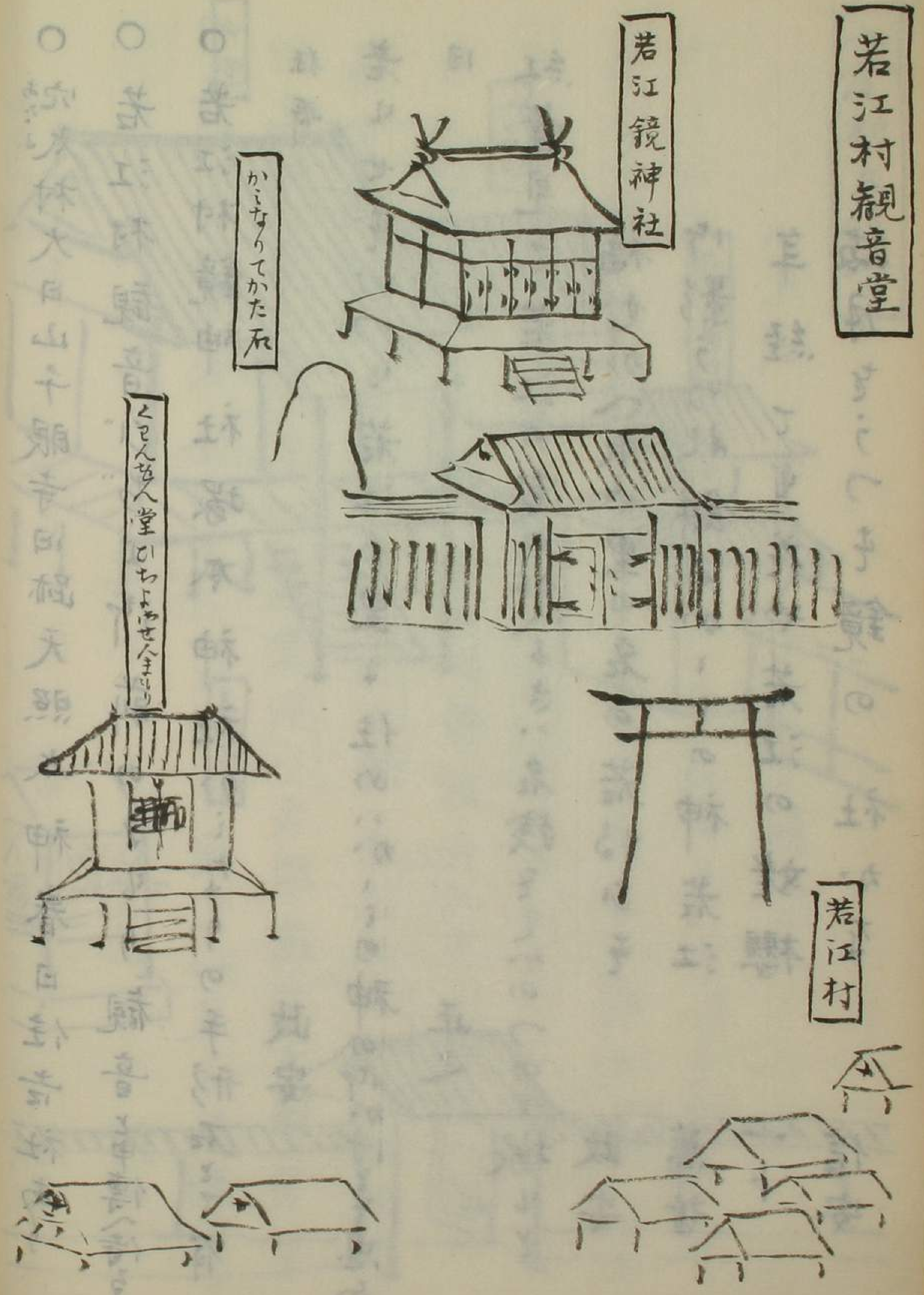
紅葉見て若江の宮のかへるさハ名残をしかのつのゝ塚もと　政安

福むかへ取や里の名の若ゆひそ　萬哲

御影うつれ餅のかゝゝの神若江　一卜

年経ても花や若江の姥櫻　信安

波月をうつせ鏡の社かな



神躰やいえ、若江の氷面鏡　意朔

○若江村三好左京太夫義次旧城跡アリ

旧跡の花ハみよしの若えかな　義忠

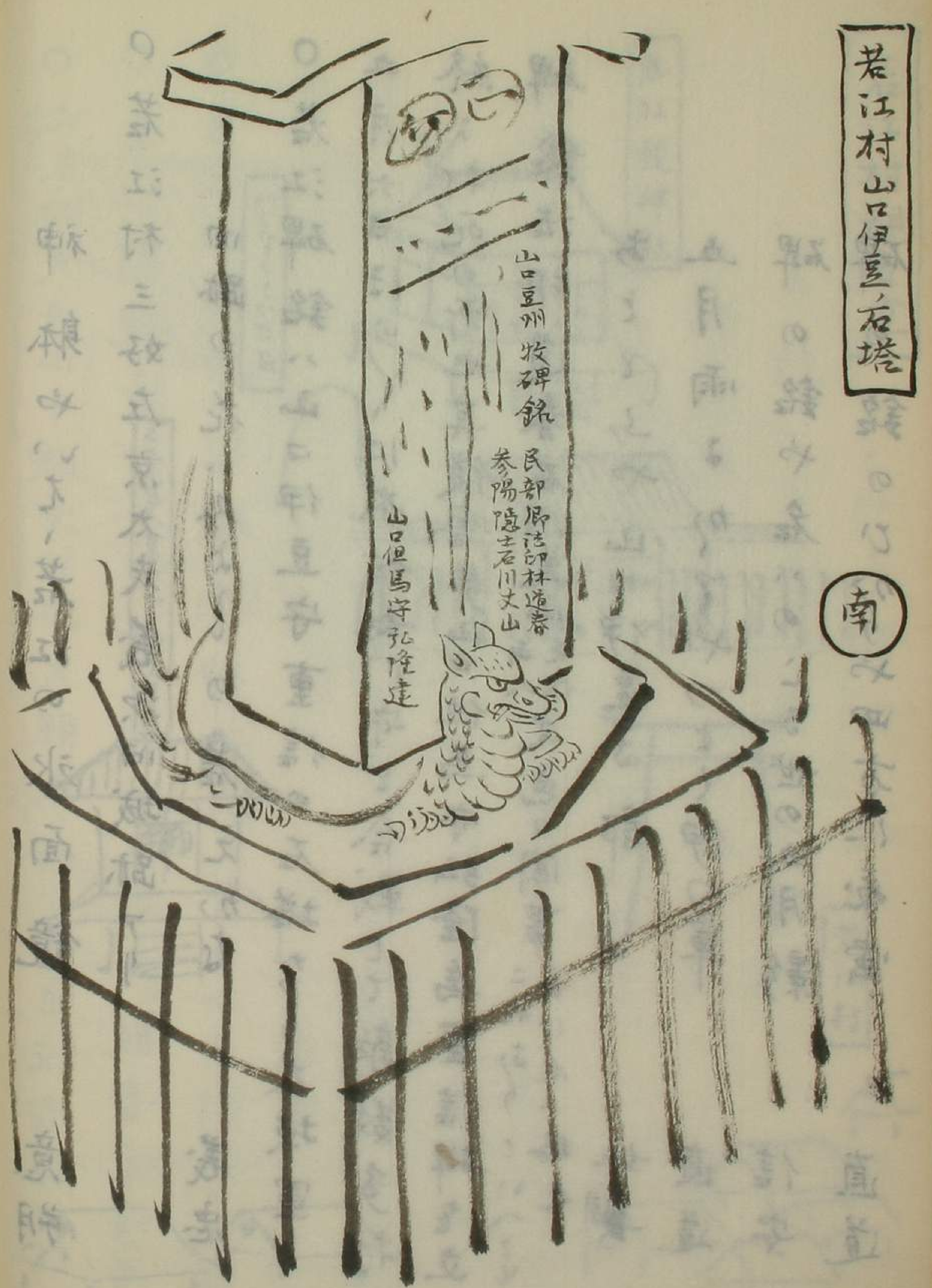
○若江碑銘ハ山口伊豆守重信の石塔なり大坂軍
五月六日ほのくに木村長門守と合戦して敵数多打
終ヌ打死の所也其後舎弟山口但馬守弘隆為重信碑を立
碑銘法印道春石川大山両人之作文色々聞事これありといへとも長けれハ略之

あとゝふや山口伊豆ゟ郭公　如顛

五月雨ニかくるやつよく伊つ軍　直道

碑の銘や名ハのこる世の五月影　信安

碑の銘のひかりや四方に飛蛍　直道



○萱振牛頭天王（若江郡）昔より祭の時ハ神前まて氏子共明松ふり神をすゝしむる故ニかやふりといふと也地蔵院本尊恵心の作阿弥陀繪像あり毘沙門堂新堂学所伽藍の旧跡あり

鶯や聲し学所の窓の梅　よミ人不知

春雨まえたし参りやびしや門堂　之吉

土もちてをくふ燕や御新堂　同

○玉串楊枝の名所

佐保姫やすく玉櫛の柳髪　貞雄

玉櫛や柳の髪をとき津風　政安

彼岸たんこさす玉串の楊枝い　野鹿

玉串てかせけ柳の糸仕事　萬哲

○岩田八幡 若江郡 人皇三十代欽明天皇の御宇に宮を立たまひ三社の御神を勧請有其時田の中にある此岩船の上に現し社壇の内に入るふと云々紫紙金泥の法花経あり

○通川 藻塩

えなちてのとをりの川の朝ほらけ堤むかひに船はふや誰　師光

狂哥

若さまをおもやこそさて通り川なかそうき名はせひに叶はぬ　次重

同

礫うつ男の念力岩さへ通る川原のむかひ岸迄　友和

夕月を見るや御の通り川　政公

月の船や夜なくさして通り川　定圃

○稲葉里 若江郡 藻塩

立別いなはの里になかゐしてさやは契りし侍そ侘ぬる　光俊

狂哥

たちわかれいなはの里の松の木に巣立の鶴も今帰りこん　久任

帰雁こそたちていなはの里ころ　江戸 重継

折句ノ クツカフ

いかさまな花見や春の里の人　周国

おくられていなはの里の田虫ぶ　定圃

露分て稲葉の里やもみんの花　宗信

○新開き しひらき

狂哥

さなへをも船につゝつゝしひらきに植なはやかて米を取つち　正之

菱つるや花の波たつ新開き　義忠

○内助か淵

狂哥
内助がふちに龍骨車(りうこしゃ)たちはたくと開きのいねに水かきくけこ　正音

同
もし奥に心をかくるものならはあこなつをけり淵なのそこそ　重次

○河田森原　河内郡
夫木
久方ののとけき空を今朝これハ河田の森ハ霞きにけり　兼仲

同
しつの女か河田の原に摘せりしたかためにとて袖ぬらすらん　俊成

○玉田横野　茨田郡
堀百
取つなけ玉田よこ野にはなれ駒躑か岡にあせミ花さく　俊頼
あせミハ馬醉木(あせほのき)此葉を馬くらへハ則死スといへりつゝじの花ハひつじころしと云

狂哥
とれ牛の玉田横野に切てしらハ是そ河内の寳成らめ　友和

取つなけ玉田よこ野のほしかふら　野鹿

雨凪や寳の玉田よこしろき　保友

○會尓賀市　河内郡
藻塩
花桜匂へるなかにすゑにかの市なる枝を取てこそ見れ　よみ人志らす

狂哥
酒を酌杯のえにかの市人ハそりつきつゝ酔狂やする　友和

扇にもかくや會尓賀の市の景　一十

○高瀬　茨田郡
夫木
たゝも枕高瀬の淀にさしいてのさてや戀路にしほれはてなん　家長

續後撰　晴命法師
いくとせか高瀬の淀のこも枕かりそめなから結ひきぬらん
狂哥　友和
指渡を高瀬の川のうちえてハ何寸さほそ船人にとへ
きれめにや鮎のねたんも高瀬川　友好
月の船ハ雲のうらハ荷か高瀬川　一十
○茨田寺太子四十六ヶ寺の内伽藍所本尊ハ薬師いつの比にか
ありけん焼失し石をへ計残る旧跡也小高瀬と云所にからんの跡あり高瀬川此あたり也
狂哥　法橋哥慶
後の世を頼申すと手を合かしこまつたの寺の本尊
○能登瀬川
万葉　よミ人しらす
高瀬なるのとせの川の後にあはん妹にハ我そけふならすとも
狂哥　松緑
のりつねの射る矢のをく行水のはやきをもつてのとせ川哉
取鮎も鯖とやいはん能登瀬川　政公
のとせ川さしきはかりの大河かな　隆玄
洗ひ出るも月夜に釜やのとせ川　黒水
○野口　茨田郡
夫木　影伴
御狩野の野口の尾花なひく迄羽爪をけしき鳴しらふの鷹
雜六　信実
志らきりし野口の里に宿かりて道のしりふに今そ朝たつ

狂哥 友和
蛙鳴野口のはたの哥ふくろふくらかをこも春のあるしよ

鳥追や野口をたゝく門の春 政公

くつわ虫声きく鞍の野口かな 如貞

○清水池 茨田郡

夫木
濁りなきあしつの池ハ影をこて見るに涼しき鏡なりけり 義作

狂哥
さゝゆへにおもひあしつか池にすむ虵躰となれる執心のほと 次重

○守口 香物名物 茨田郡

もり口の梅の匂ひや香の物 高故

○時鳥なかきハ宴にすもり口 隆玄

賎か屋のもり口当る氷柱かな 天満 政長

○村の名に一番二番三番十番迄あり 茨田郡に有

一番に初音きかせよほとゝきす 久次

村の名の二番白水やうき氷 宜休

三はんとおとらぬ村のすまうかな 遊女 藻川

秋の毛見のもくさんをするこはんかな 良弘

在名を名乗をまつや九番打 呉水

○佐太宮天神一番村也

○佐太池佐太川一番村也

○佐太宮天神御什物

仙洞様御製

家の凡世ゝにつたへて神墻や
絶たるをつく梅もまなぶ覧

河州佐太宮ハ菅神の廟なりしかれ
とも近代社あれハてゝ祭奠の儀式も
なかりしを永井信州太守尚政朝臣
再興せしにより壮麗目を奪ひぬる
者ハ尊ミ聴者ハ乃そむその比
太上天皇百和番ま梅の折枝をそへて
尚政朝臣ま給りしを神庭まつなて
瑞籬のうへ物とをこれま依て右の御製
を尚政朝臣まくだしたまふ即納之
内陣の寶物となしぬ何の栄かこれま
加へんされは神の徳いよ〳〵たかくわれ
がまこといよ〳〵あらはるゝものか彼
御製の由来をかきつくへきよし所望
まより亭やむるとをえあそいさゝかえるし
つくるものなりし

慶安元年大呂念五

北野寺務二品親王良尚書之

里人のいはく二枝の梅時ならぬ卯月の末つかたに御
接有しに勅定おもき故また二枝なからつき瑞蘺の内に神
木と也侍りと傳へしを承扱も忝御事代君の御めくミ
ふかき故神も梅も心ありけるよとかんるいきもにめいつゝ
かの接木の梅の御神木を拜してけりかやうれ御製此
さうしは書の世中事天のおそれもいかならんなれ
共和哥の道ならハとやらん御ゆるし蒙るへしこな
月中旬虫ほしは参詣おかミ奉り遠國諸人
のためにもならんかしとおそれなから書うつし奉也

新院様御自作渡唐の天神の尊像縫にてうつし給ひけれハなし
妻江戸ひらに松梅の蒔繪あり　北野如寺務二品親王良尚其脇に御そへ書御判あり

東福門院様縫にて御自作の　業平東帯掛物　一幅　小野小町かけ物　一ふく
竹門様　御自畫自讃渡唐天神　一幅
竹門様御筆ノ額佐多天満大自在天神と在之
天神東帯の御影則天神御自筆
近衛様信尋公御發句御自筆前書あり
河内國佐多といふ所にて年毎に聖廟の法樂
の連歌せしにさハる事のありて絶けるを今ふた
たび興して世をいのらんよしいひて發句所望を
されけるにつかハしける

神やもる世々のを葉の花盛　　格

天神松梅の賛道春春斎春徳　三幅一對　繪ハ益信筆也

天神　夕顔巷穸
西龍北埜秘宮檀家世儒宗
任宰宮殁有精靈生有節
花時却賞碧琅玕
松　向陽子
菅相儼然戈徳隆蒼髯獨
立白儒風生上一夜顕靈異
絶勝夢中十八公
梅　函三子
冷蘂東風紅白芬清標
今古對菅君飛梅似振

蟠龍勢捲盡海西千里雲
渡唐天神雪船筆
十一面観音 白蓮花 赤蓮花 三幅一對法眼探幽筆
墨繪天神 松 梅 同筆
尚政朝臣ニ給りし御香合梨地 ふたの上ニ蒔繪ニて菊の御紋あり
竹門御筆菊の繪掛物一幅上ニ御自筆ニて和哥有
秋の野ゝ草の色〳〵咲ぬとも名たゝる花の菊の一もと
紫野大徳寺江月和尚掛物一幅
寛永廿癸未載二月日詣佐多宮
惟時再興卒賦一偈以祝遠大三
佐多比野又西府一樹梅花

面目真七百餘年徳惟馥南
呈大自在天神　宗琉拜

哥仙繪ハ八幡ノ萩の坊哥ハ竹門御筆
雲會書一冊哥書也
佐太宮の起法印道春筆
寶劔銘武蔵國豊嶋郡住大和守包定
菅家文草十二冊
観音の縁起
住古より佐太宮縁起繪入六巻あり
右の縁起六巻のやいぎを かなまて 八幡山法童坊の筆にて有

其外寶物多しといへとも書つくしかたし略之
菅相寺山号ハ平林山院号ハ玉蔵院坊号ハ東坊昔ハ七坊有しとせ
観音堂十一面観音行基菩薩作牡丹芍薬あり

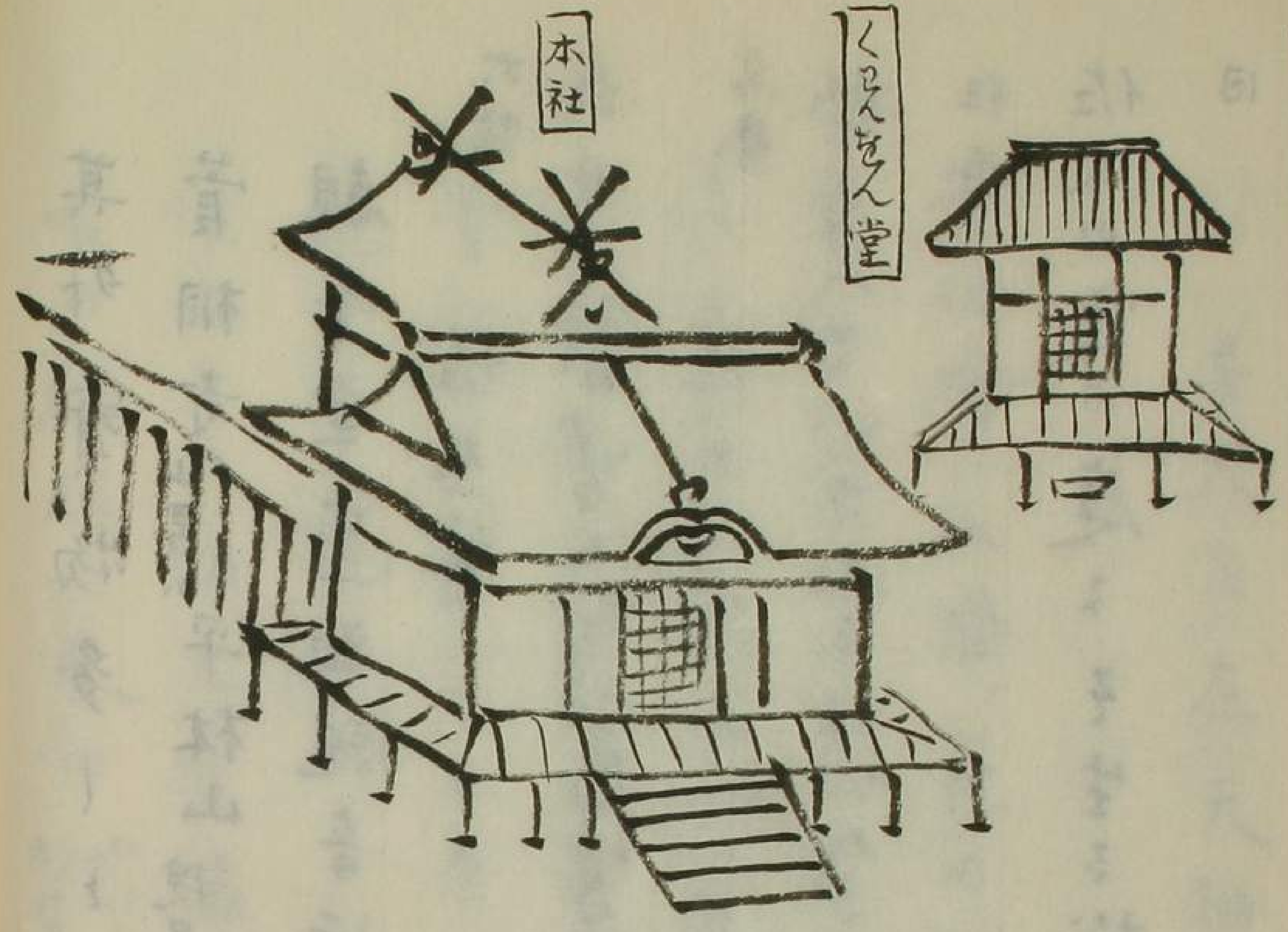
六帖　佐太池　伊勢
我せこかおゆるおしさはたの池の玉もまれるなりあきもやん

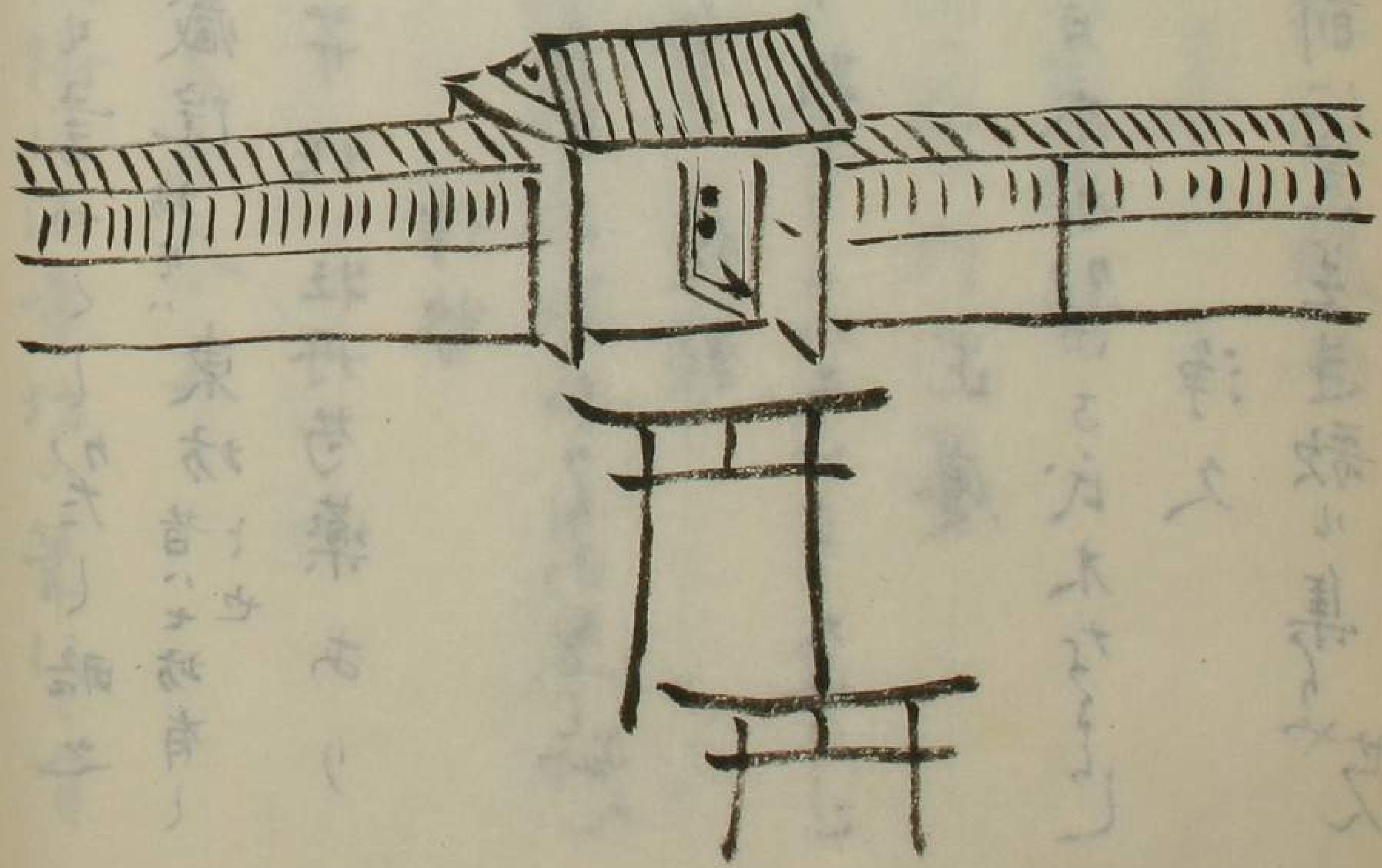
名寄　佐太川　俊頼
駒なへていさみにゆかんさた川に枝さしかはすそやまとなでしこ

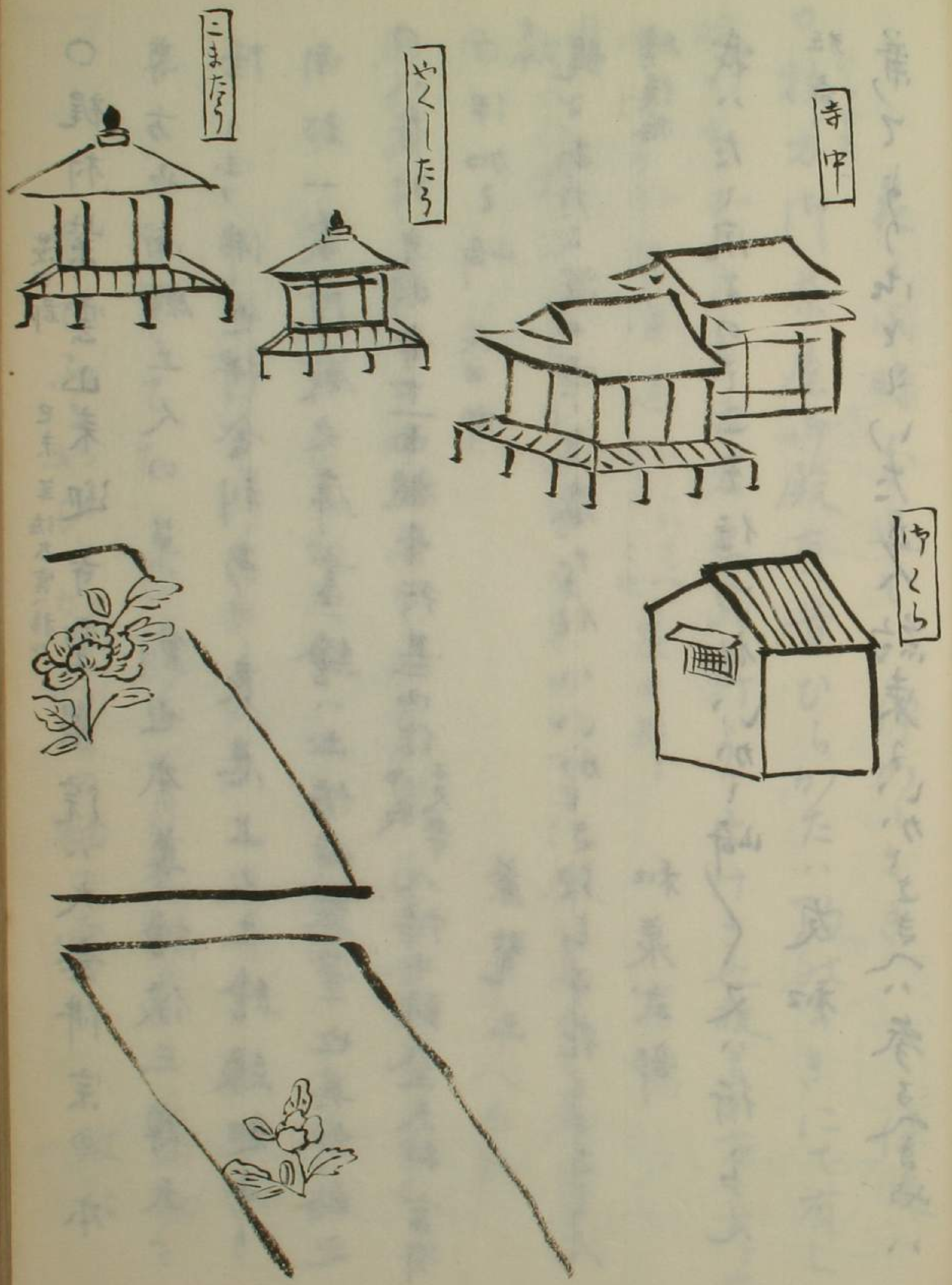
狂哥　正慶
佐太の宮の庭にそ生る松梅ハ日本さかゆる氏木なるらし

日　浄久
ほたん花の咲そと佐太の宮の前に笠着連歌に集りやせん

佐太の宮天神



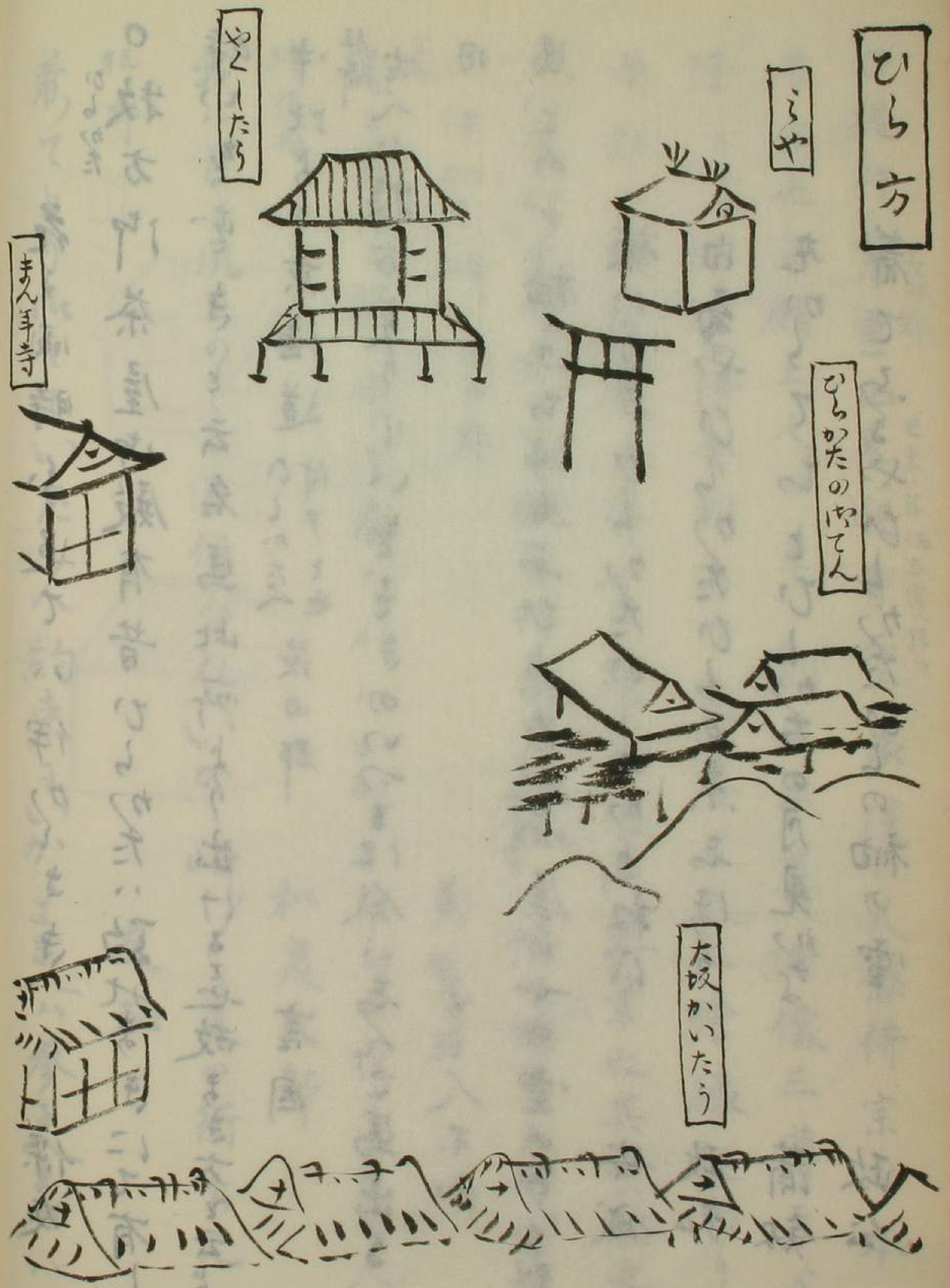




○梶村紫雲山（茨田郡）来迎寺（巳未ノ年佐太宮ヘ移ル）聖衆院ハ大念佛宗の本
尊方也西願上人の草創也本尊繪像三尊天ゟ
降リ玉フ佛也佛舎利あり良忍上人之繪縁起あり
南都一乗院殿之序書繪ハ土佐将監筆也其外ハ略之
○八番村光明寺十一面観音行基御作（御長三尺）寺八幡牛頭天王天神ノ宮有
（古今）○伊加々崎　茨田郡
梶にあたる波の雫を春なれハいかゝさきちる花とミさらん　兼覧王
（續後拾）
我ハたゝ風にのミこそ任つれいかゝ崎く又ハ行らん　和泉式部
（狂哥）
兼てより法としいたさん約束にいかゝさきへハ参るへきやハ　友和

花に雨時ゟ過てハ伊かゝさき　保友
○牧方（ひらかた）御茶屋御殿有昔ひらかたハ駒まきにて有し
時いきずきと云名馬此所より出けると也故まき方と云と也
中比より京海道ひらかたへ付アと也　茨田郡
（狂哥）
古へハ牧方よりいきずきのいつるに今ハちんこ馬出る　言因
よミ人不知
同
馬とめて袖うちはらふひらかたの茶屋の女の雪の夕くれ
旅ハうきひらかたひらのかりねかな　安成
白雨やひらかたひらの糸志ほり　政弘
丸かりてちとひらかたの月見かな　蒲劔
着てふるやひらかたひらの袖の雪　政公

ひら方



○萬年寺（枚方 茨田郡）長松山と号ス十一面観音御長一尺八寸春日の作鎌
佛と云石の薬師御長一寸八分弘法かまて作りみふと申傳へ侍る
醍醐聖寶僧正開基山也
○大垣内此所へいをときを追よせ垣ゆひ廻し取ける故ニ名ニ云と也
○天川（方与）交野郡

霞たつ嶺の桜の朝ほらけくれなゐくゝる天の川波　定家

新林
星合の光やけしにうつるらんかた野ゝ御野の天の河水　前左大臣

狂哥
天河ふかきおもひをほしとかたりつゝ世よ七日七夜ル　一有

正香

狂哥
鵲のはねハなけれと天の川ちろく水ハ飛こへにけり　久女

日
我おルひ天の川瀬のにこり水さいられ出て心ろくせれ　友和

日
刈くらし七夕妻まこなさせん天の川原ま稲をほしつゝ

星や水ゝ落あひ女夫天の川　一志

天の川今そ見る月の二ほし　元由

天の川こに三ヶ月や茶船なり　正音

七夕の星田や出合ふ天の川　定観

宿をかる天の川原や俄雪　言子

○百済王子の姫の塚いかゞ崎の辰巳ニ有　宮女か塚ハいかゞの東ゝあり

○竹川　交野郡
拾遺
紅葉はの流るゝ時ハ竹川の淵のみとりも色かハるらん　躬恒

家集
神代より道もかハらぬ竹川のよゝを君まやかぞへ渡らん　徳院

狂奇
ひたとりにうるへ竹川なかれ行世によきふしハ是ま過しと　友和

日
竹川のふしられ立し言の葉も和哥のなかれの末の世かたり　香隆

日
竹川ま蟹のかゝりしむかしハ流れルやらぬもとりなりけり　政公

次重

狂哥

手細工に切まハしつゝ竹川の水をたゝえて花生にせん　一十

竹川の鮎ハさかなよ源氏酒

○禁野　交野郡　和田寺薬師太子御作　御長三尺二寸　和田新発意建立と也

惟高御子御狩の時金色の三足の雉出しより

此所を禁野と御制札うちのひしと申傳へ侍る

鶯もとふ行ったる禁野かな　香隆

一聲も禁野の里か郭公　永冨

○中宮村　交野郡　西方寺正観音行基作御長二尺二寸

○百濟王の宮あり廣き松原有伽藍の旧跡有

百濟王子来テ拜ス聖徳ニ　年代記ニあり　其比なてやありけん交野にて右に鷹すへさせひめふとなり

○交野　俊成

新古今

又やミん交野のゝゝ桜かり花の雪ちる春の明ほの

堀百　常陸

あふをのかたのゝきゝを妻戀ゑむへほろゝと立ゐ鳴らん

狂哥　好昌

日照にや交野の小野に芋をうへてほまる里人衣子もなし

旧　友和

鷹ならてをゆるかたのゝ糸をさへあつかり塲とやおもひふらん

鶯も哥の心や屁さかた野　道意

これたかの取は交野の雉子バ　常政

狩塲の雉子にける羽音やるゝ野　定久

持おもるかた野の雉乃羽もバ　擔板

雉も住や我もかたれとふるさし　蒲汎

一荷ゑやかゝるかた野の月と花　浄宣

弁當を持やかた野の桜かり　益翁

見るかたの手ことけをしてや桜狩　清风

くちなこル衣ぬき掛るかた野哉　政公

帷子ハゝくふるさ乃ゝかり着哉　似柳

くろうくかたのゝ萌やいと草　政公

碪をやひたうちくさの添ゆる程　常有

かたのゝてなかむか月や一門紋　周国

残り㸃きはや入かたの月見哉　正儀

鳴音きけかたれをしな鵺かな　一心俊

〇嬰児山（みとりこ）　交野郡　よゝ人志ら志

方与集

我をやういねハなくと時鳥みとり子山に入てこそきけ

狂哥　友和

目出度ル老せぬ松の志るしに八千年経てル見とり子の山

されハ柳みとり子山のふり哉　未口

花もみや嬰児山の姥桜　冨吉

乳ゝやあますえとり子山の雪な拖　松緑

木の目あくや松のことり子山そたち　友茂

夜鳴きるかみとり子山の時鳥　野鹿

秋风ハえとり子山のてうちかな　德清

千種もや萬児山乃ふるさ物　冨吉

○波潊(なぎさ) 渚院観音寺十一面観音(交野郡)(御長三尺) 古へハ千本の桜有しと也

昔惟高親王渚の院の桜をにおもしろしとのたまひて其木のもと

まおりゐて枝を折てかさしにさしてかみなかしもみな哥よみけりう

まのかみなりける人のよめるなりひらの朝臣

伊勢物語

世中に絶て桜のなかりせハ春の心ハのとけからまし　業平

同

ちれハこそいとし桜ハめてたけれうき世に何か久しかるへき　有常

家集

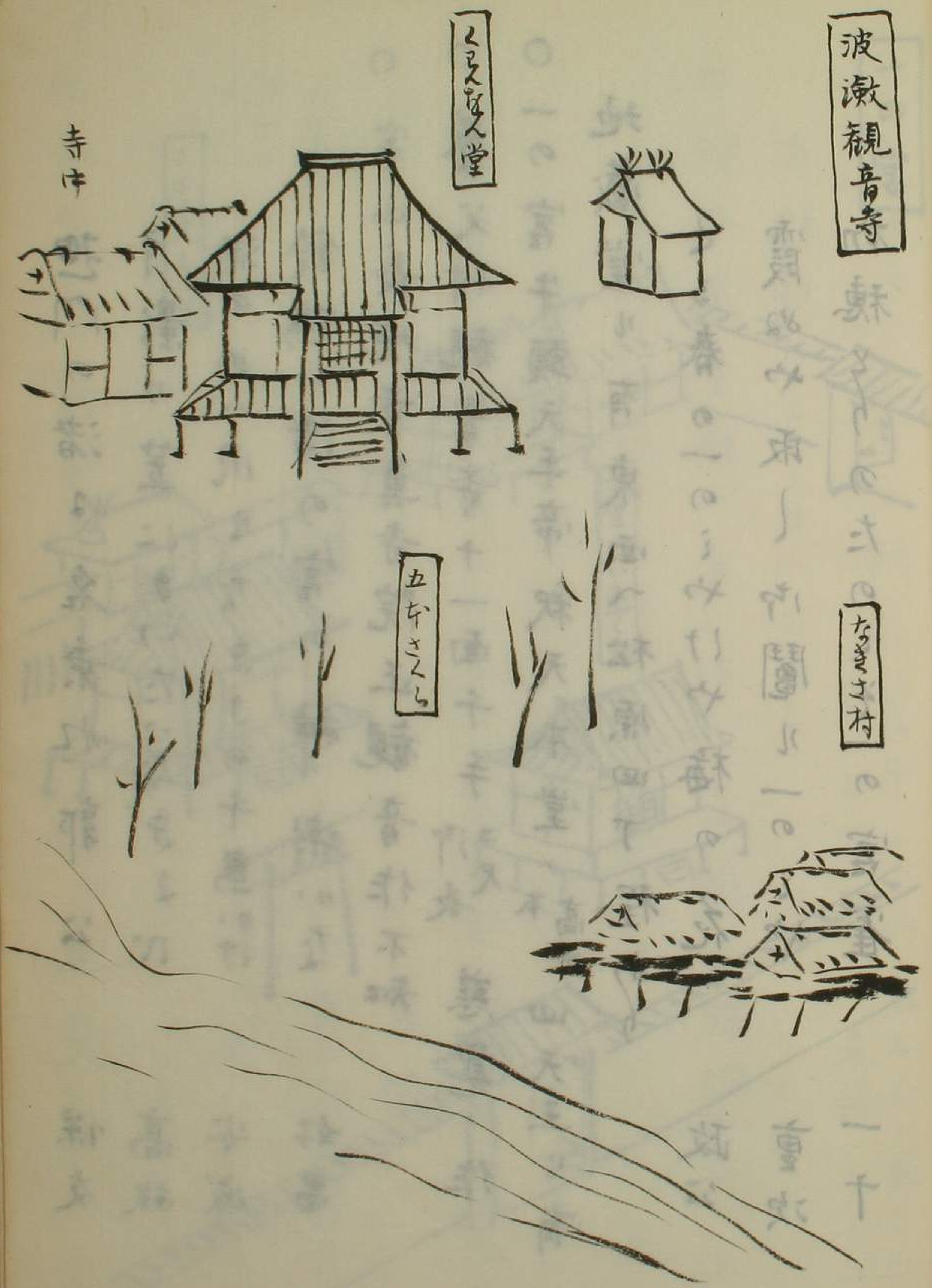
うちつけになきさの岡の松風をそらに浪のたつかとそ聞　信明

狂哥

これたかの有しむかし時代遊し跡ハなきさの院ハとこやら　友和

絶て臭花とみや渚乃桜鯛　西鶴

波潊観音寺



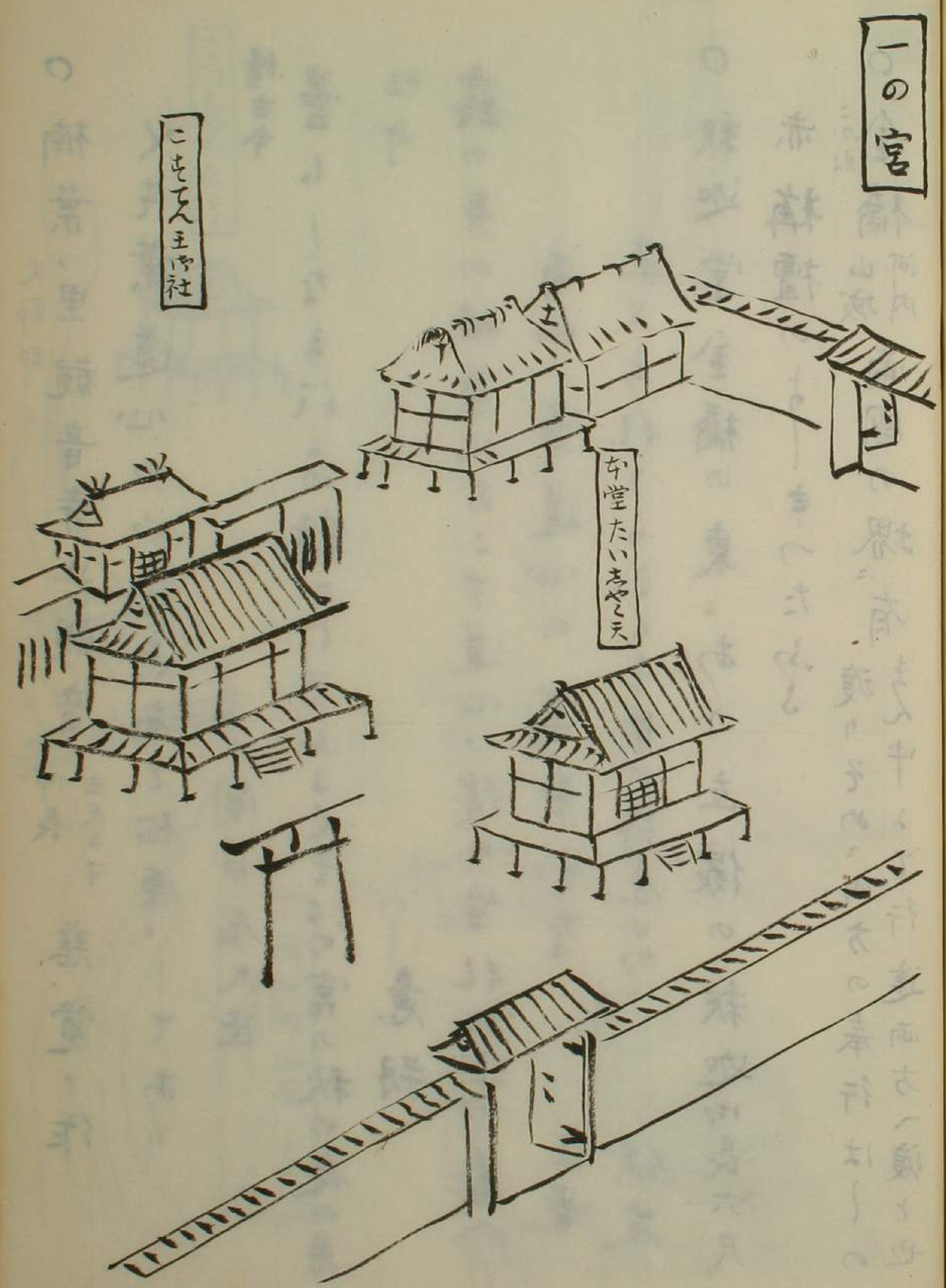
地門の渚ま名乗れ郭公　保友
月影の笠にきいたいなきされ　高故
酒のめハ爪ルなきさの千鳥かけ　安成
鈴鴨ハ渚の宮の神楽かな　好昌

○宇山長徳寺真寺院正観音作不知

○養父村観音寺十一面千手御長二尺慈覚ノ作

○一の宮牛頭天王帝釈天本堂ノ本高也四天王も有
地蔵堂ル有東西へ松原四丁程あり

くる春の一のミやけや梅の花　政公
霞ぬや取し御闔ル一のミや　重次
初穂とりのたのミそ一の宮雀　一十



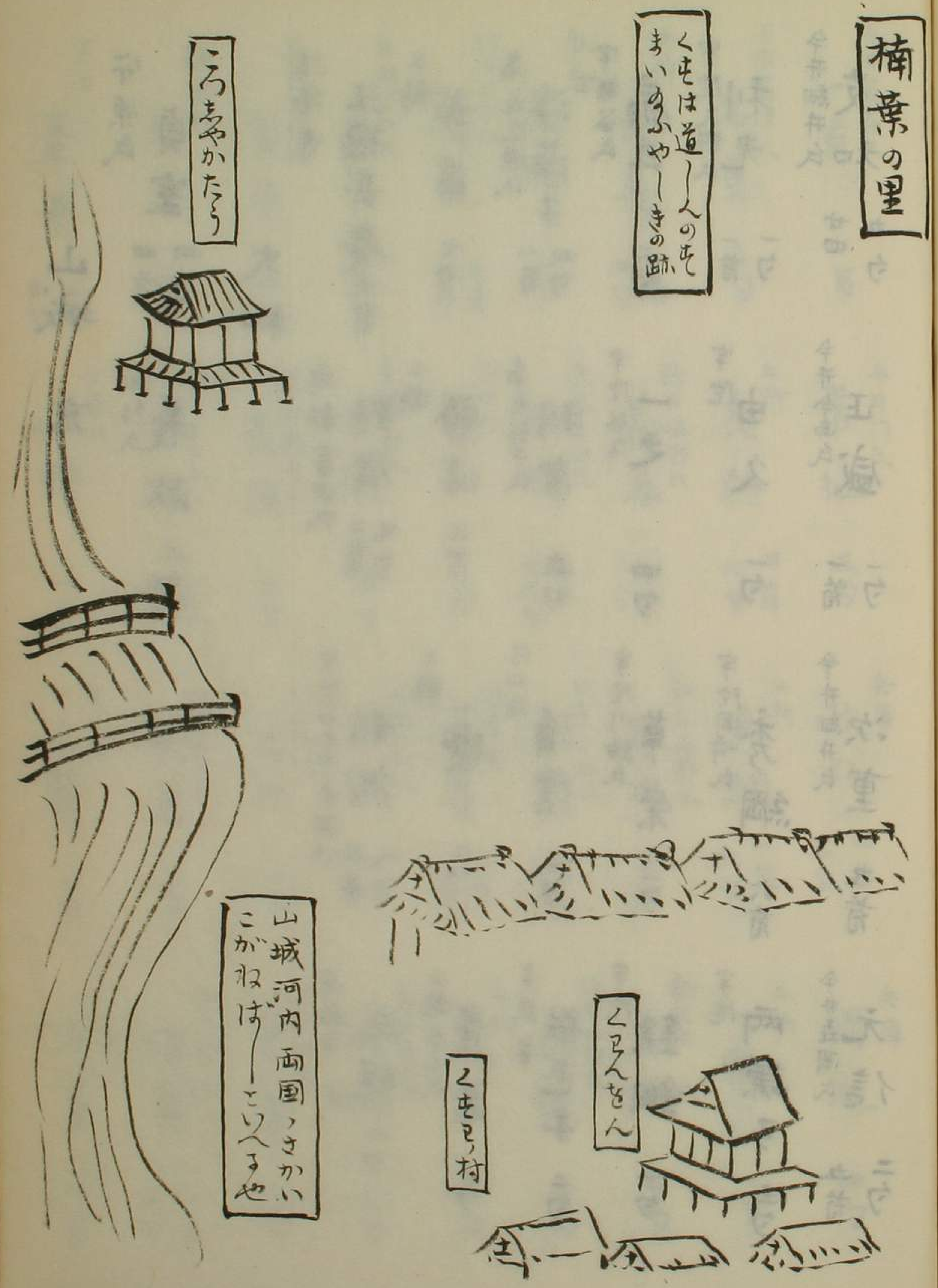
○楠葉ノ里(交野郡)観音寺正観音(御長三尺二寸)慈覚ノ作
くそ葉道心のやしきあと松原にしてあり

続古今
曇らしなまにこの鏡かけそふるくそはの宮の秋の夜の月　関白左大臣

狂哥
露の身の楠葉におこす道心ハ後の生れのため成へり　意朔
夜山ハ青道心の葛葉かな　正音
立とまれうらミくそ葉の茶屋のかゝ　保友

○釈迦堂金橋の東にあり立像の釈迦御長六尺
赤栴檀のよし申つたふる

○金橋(こかね)山城河内両國の堺ニ有
渡りそめニ両方の奉行はしのまん中まて行逢両方へ渡とせ



山城

京

安原氏 貞室 四首 四句
田結氏 義政 三句

大和

法隆寺 法橋哥慶 六首
南都富田氏 野鹿 二首 九句
宇陀谷氏今南都住 則武 五首 八句
南都高 住 成明 一句

三輪 芳昌 七句
三輪 勝信 三句
三輪 一樂 二句
三輪奥山氏 豊昌 一句

高市在原氏 浮萍子 一首 四句
高市桜井氏 利常 五句
円土佐 清信 二句
多武峯 粧色子 二句

宇陀 宇陀谷氏 扇斗 二句
宇陀谷氏 一之 四句
宇陀川路氏 草栄 一句
宇陀 鉄銅 一句

宇陀久野氏 利光 一首 一句
宇陀 由久 一句
宇陀岡崎氏 秀綱 六首
宇陀 両謙子 三句

今井細井氏 支和 廿四 五句
今井今西氏 正盛 一首 一句
今井細井氏 次重 九首
今井森岡氏 元信 五首 二句

今井家長氏 一有 七首
今井門氏 常征 三句
兵庫 政弘 四首 三句
兵庫 周永 四句

下市高津氏 忠貞 三句
五所 良弘 四首 六句
五所 良綱 一首 六句
五所 一雅 一句

五所 良長 一首 五句
新庄塩野氏 義元 六句
新庄麻野氏 伊次 三句
新庄大 氏 吉方 二句

新庄 松都 一句
道穂吉村氏 周國 一首 十九句
西室吉村氏 正寛 五句
佐田北村氏 道意 二句

佐田北村氏 清風 三首 二句
佐田村 善心 二句
延命寺 宗音 一首 一句
名柄 一雲 三句

名柄吉村氏 正俊 五句
名柄中村氏 正儀 三句
名柄中村氏 正武 一句
高田吉井氏 似柳 二句

高田小嶋氏 言子 三句
北花川観音寺 良源 二句
北花内村 之次 二句
北花内村 定廣 一句

鎌田村 光之 一句
狐井赤土氏 自延 二首 三句
狐井赤土氏 永房 一句
狐井赤土氏 惟貞 一首 二句

下田 葺葉 二首 三句
穴蒸村 仙野 一句
寺戸村 正賢 一句
村 受夕 一首

庵治村 辯愚 三句
庵治村 正則 一句
細井戸 二笑子 二句
村 時春 一首四句
二階堂 仲也 一句
西代 信道 一句
岩見 信昌 一句
王寺村 清緬 一句
山角村 秀立 一首三句

河内

中村森氏 政公 四首五十句
石川同所 器水 三十句
神山村 一也 二首
寛弘寺 光吉 五句
大ヶ塚 可正 九句
大ヶ塚 可清 一首十句
寛弘寺 吉重 三句
上太子村 梵達 四句
春日村田中氏 弘重 三首十二句
春日三村氏 定久 五句
大ヶ塚 正慶 一首
山田伊達氏 正利 二首二句
山田村 重勝 三句
山田村 忠正 二句
山田村 正勝 二句
山田村 重房 二句
山田村 鉄牛 一句
山田村 正房 一句
山田村 猒故 一句
山田村 忠之 二句

山田村 正重 一句
壷井岸野氏 唯正 二首十句
壷井塩野氏 愚蛙 二句
壷井村 正安 一句
大黒村 雲廟 一句
駒ヶ谷 義之 二句
古市 吉重 二句
誉田菅氏 可房 二首五句
誉田 淨宣 四句
誉田 一十 卅三句
野中村林氏 正信 一首一句
野中村 回愚 一句
野中村 雲紙 五句
岡村内本氏 友好 五句
小山日暮氏 重興 二句
津堂前田氏 正香 一首一句
津堂浅田氏 宗信 一首一句
北嶋泉 光栄 四句
北嶋泉 清重 二首一句
小川谷氏 正明 二首一句
三宅村 一守 一句
田井城平本氏 重成 四句
布忍寺内氏 栄貞 五首五句
池田薮氏 貞弘 一首六句
布忍 安求 五句
布忍 一志 五句
布忍 好昌 一首三句
布忍 易幸 一句
住道村 重勝 一句
住道村 卜人 一句
国分 行廣 三句
国分 珂琳 四句
国分原氏 直房 二首四句
国分 永富 四句
国分 重勝 二句
田邊村 久永 二句

国分 一利 五首八句
大井松尾氏 如元 一首八句
柏原三田氏 浄次 一首一句
弓削村 重良 三句
大田村 空玄 一句
木本巽氏 隆玄 一首一句
出戸村 六松 一句
八尾木村井氏 可次 三句
同 毎雄妻 一首三句

国分 久女 一首
大井村 正元 四句
柏原三田氏 久次 一句
弓削村 為三 一句
木本巽氏 香隆 二首五句
村 湛良 一句
鞍作村 燕石 一句
八尾木原氏 正之 十三首二句
萱振村 好貞 三句

国分清水氏 竹葉 一句
大井村 良恵 三句
弓削西村氏 常政 六句
大田柏原氏 信之 二句
木本巽氏 重次 三首十句
下太子堂 全栄 一句
八尾木村井氏 及次 十二首六句
八尾木原氏 正利 一句
萱振村 仲宗 二句

国分 友次 一句
柏原小山氏 利房 四句
弓削吉村氏 種好 二首一句
大田村 重継 一句
木本巽氏 忠之 三句
竹渕村 宗直 一句
八尾木山谷氏 林城 四首八句
八尾東口今西氏 毎雄 一首二句
萱振村 仲重 一句

まゝ人不知 一首一句
若江 政安 三首三句
若江 直道 二句
衣摺原氏 正音 十八首九句
忍知村 良玄 二首一句
黒谷 歩月 四句
交野 蒲釼 二句

萱振村 之吉 二句
若江 信安 二句
若江 一卜 二句
衣摺 深誉 一句
忍知村 典僧 一首二句
黒谷 正次 二句
佛眼寺 正宗 一首

萱振村 西教 一句
若江 萬哲 一首三句
若江 義忠 三句
衣摺 忠幸 二句
忍知村 重之 一句
大窪村 貞範 六句

萱振村 友茂 一句
若江 晩翠軒 一句
御厨屋 春霄 一句
三嶋新田小嶋氏 親吉 一首
黒谷 檜板 一首九句
柏原三田氏 浄久 八首六句

和泉堺

谷氏 永重 一句
池嶋氏 成之 二句
林菴 顕成 一句
田中氏 政長 五句

岩村氏 光伯 五句　岩井氏 教二 一首　柏原氏 正勝 二句

攝州大坂

御菓子所藤原 貞因 二句　松山氏 玖也 八句　伊勢村氏 意朔 七首廿二句　喜多村氏 立以 七句

井口氏 如貞 卌句　水上氏 樂也 二句　伊勢村氏 重安 二句　山口氏 清勝 三句

井原氏 西鶴 五句　高瀧氏 以仙 七句　賛也 一句　性空 二句

小嶋氏 良賢 五首七句　藤原氏 言因 一首一句　福住氏 如松子 一句　高故 二句

落氏 忠昌 二句　氣谷氏 安成母 一句　氣谷氏 安成 四句　曽山氏 曽立 二首

林氏 定親 七句　林氏 定軏 三句　中村氏 宜休 九句　遊女 藻川 三句

室住氏 元由 八句　冨川氏 有安 一句　堀口氏 初知 一句　堀口氏 器音 二句

櫻井氏 素玄 一句　小野氏 松緑 七首四句　友也 一句　友定 一句

古河氏 定圃 十句　重栄 三句

天満

西山氏 梅翁 二句　梶山氏 保友 十四句　西田氏 久任 十三首廿三句　田中氏 友夢 二句

平子氏 政長 十二句

天王寺

以春 一句　道次 一句　後栄 一句

平野庄

祐可 二句　家次 二句　伊永 一句　宗継 一句

柳花 一句　廣之 一句

武州江戸

永田氏 重継 一首九句　篠野氏 冨吉 一首八句　飯田氏 徳清 一首八句　松田氏 常栯 七句

早枝氏 好春 七句　内海氏 未郷 六句　篠野氏 吉勝 五句　今村氏 嘉任 五句

飯田氏 清次 五句　宮坂氏 可勝 二句　小野寺氏 正次 三句　猪股氏 久貞 一句

宗圓 二句

伊勢神ア　柴田氏 古生 一首

備後福山　可圭 三句

豊後玉来　柴木氏 正信 四句

されども歌三田氏浄久といへる隠士
古来稀なる年に及び花をうつゞの体
蝶の眠をさまし水に點ずる蜻蜓乃
行衛を揮りてみる行衛をまゞ住
なましゐ河内の国成あしの鴬をきいくと
息杖はらせ心乃まゝ成どうしといふあの坊

この五と歩六ミ諸しうちすゝれたる紙

為侍ねきゝらる歌をあつめ河内の国

名所濫と名付る事をその切穏王に

為も志るゝのみ司馬遷が河し志

あつまれるものや後の人

草鞋をはかず菅笠の緒をしめずして

河内一国を座ながら游ぶべし野坂

唯来る事明し高山の烟雨湖

江詠うし得なるへく此書誌あん

だいを志家ものあるし

延宝七のとし初月下旬　桜井隠居一時軒

岳西惟中跋